

問い) 上記質問以外に学校適正規模・適正配置についてご意見がございましたらお聞かせください。【自由記載】

注) Google Gemini (生成 AI) にてご意見を 100 字程度に要約しています。

丁寧語は常体語にて記載しています。

数の表記はアラビア数字としています (文章表現に関するものは漢字で表記しています)。

ご意見の主な内容をテーマ別に分類しました。

小中学生の保護者のご意見 (旧今治市)

統廃合の進め方について

少人数校は通学が楽だが、教育環境には課題もある。統合の是非は、慎重に検討し、子どもたちにとって最善の決断をしてほしい。経済的な負担を減らし、教育への投資を増やしてほしい。
田舎で合併するには、バス対応などが出来ないと難しい気がする。特に小学生は。中学生は統合しても電動チャリで行けばどこまででもいける！
少子化に伴う学校の規模配置については、生徒の学習環境の充実を優先すべき。学級崩壊などの問題を解決するため、教員の負担軽減とやりがいのある環境づくりが重要。生徒数や仕事量を無理なく調整することが必要。
学校統廃合による通学距離延長は、児童生徒の負担増につながり、保護者の送迎も増え学校周辺が混雑。コスト削減も重要だが、児童生徒、保護者、教職員への負担軽減策も同時に講じるべき。
少子化による児童数減少を背景に、学校合併が検討されている。新校舎のメリットとして、冷暖房完備やデジタル環境の充実が挙げられるが、通学路の延伸による安全面への懸念もある。スクールバス導入など、児童の安全確保が重要。
生徒数が大幅に増え、目が行き届かない学校は、休校・登校区域変更などを検討し、生徒一人一人に目が行き届くような教育環境を整えるべき。教員と生徒の距離が離れ、学力維持が困難になる懸念がある。
少子化による生徒数減少に伴い、小学校統合が議論されている。少人数クラスのメリットを考え、統合に賛成する一方で、生徒数が増えすぎると目が行き届かなくなる懸念も。地域の実情に合わせて、メリットとデメリットを比較し、慎重に判断すべき。
少人数制の学校で、子どもたちは先生や高学年の生徒との交流を楽しんでいる。しかし、学校統合のうわさがあり、通学距離が延びることが心配。小学生にとって負担が大きく、移住してきたばかりの保護者としては深刻な問題。具体的な対策などあれば提示してほしい。
日本の将来のためにも大事なことなので、社会や大人の都合もあるが、子どもたちのことをきちんと考えて決めてもらいたい。
学校統合で通学距離が伸びるのであれば、始業時間を遅らすなど、子どもやその家族に負担が減るようにしてほしい。
教員の人数も適正配置の検討が同時に必要かと思う。

少子化によりクラス数が減少し、人間関係のトラブル発生時の選択肢が限られている現状に懸念を感じている。クラスの人数が多いと、先生方の目が行き届かず、授業態度や学習習慣が軽視される傾向にあると感じている。少人数制のメリットも考えられるが、クラスの規模感だけでなく、生徒一人一人に目が行き届くような先生の配置も重要だと考える。
地区説明会では具体的な情報が得られず、前回の合併時のアンケート結果や審議会の意見も反映されていないように感じた。合併を経験した人々の意見や考え方は様々であり、それらを十分に聞き取り、今回の学校再編に活かすことが重要と考える。過去の学校再編を経験した子どもたちや保護者の苦勞が無駄にならないよう、地域全体で魅力的な学校づくりに取り組んでいく必要がある。
支援学級の人数・クラス数も考慮していただきたい。
近年、子どもたちの多様化が進み、きめ細かな指導が必要となっている。そのため、先生や子どもたちの負担を軽減するため、クラス編制の見直しや校区の調整などが求められる。学校統合だけが解決策ではなく、通学距離なども考慮しながら、より良い教育環境を築くことが重要。
少子化による学校の統廃合は避けられない状況だが、地域の活性化や子どもの社会性の育成という観点から、慎重に進めるべき。ICT だけでは補えない、対面での学びや社会体験の重要性を考慮し、地域に根ざした教育環境の維持が求められる。
2 クラスの維持。また、近見地区だが、もしどちらかがなくなる場合は、小中学合同にし、どちらも近見地区に有ってほしい。魚島は、そうだと聞いた。とてもいいと思う。
小学校低学年は少人数クラスが望ましい。学校統合は、（特に多くの荷物を持って歩く）低学年の通学距離を考慮し、適正な範囲で行うべき。
少人数クラスは良いが、友達ともめた際などにはクラス替えできたら安心。統合後の通学距離が心配。特に低学年では体力的な負担が大きい。学校が近いことで、通学や避難の面で安心できる。
人間関係を作るのが苦手な子が多い現状を考えると、クラス替えができる状態が心の安定にもつながると思う。
小学校高学年では対人関係が複雑になりがちなので、少人数クラスでの指導が望ましい。低学年の間は、異年齢間の交流機会を増やし、友達を見付けやすい環境を整えてほしい。オンライン授業よりも、対面での授業や行事を重視し、直接的な交流を促すことが大切。小中一貫教育は生徒確保につながる一方、通学区域が広がる場合は、登校時間や通学手段の工夫が必要。
子どもが減少しているからしょうがない。学校数減らして、送迎バスなども検討する時期になっているように思う。もしくは、少子化対策の本質に取り組んでほしい。
学校によって、人数の規模が違いすぎる。せめて 1 学年 3 クラスの環境があったらと思う。
適正配置見直しによって、通学距離が延びると一番困る。親が送り迎えしないと行けなくなる。事故のリスクが高まる。
少人数でクラス替えが難しい場合でも、学校行事などでグループを頻繁に入れ替えることで、クラス全体の雰囲気改善が期待できる。いじめ問題への対応策の一つとして、被害者と加害者を分ける選択肢があることはとても重要と考える。
校区制により、小学校への通学時間が長くなる児童や、学校間の児童数に大きな差が生じている。特に、校区の境界付近の児童は、合理的な通学が出来ていない現状がある。少人数教育のメリットを考慮しつつ、柔軟な校区設定や、中学校のように部活動での校区間の交流を認めるなど、児童の

状況に応じた対応が必要。また、学校統合は、地域の将来的な人口減少につながる可能性があり、慎重な検討が必要。
今治市内の学校統合は必要だが、徒歩通学が困難になる地域には、保護者負担なしでスクールバスを導入すべき。
校区が狭く家賃や土地代が高いため、引っ越しが困難。就学前に転出する家庭も。校区変更の可能性があれば、早めに周知してほしい。

適正配置（校区見直し）について

中学校が遠い。もっと近くにあればいいと思う。
しまなみ地区の児童は乃万小学校まで遠距離通学し、学校施設も手狭で、子供の活動が制限されている。別宮小学校への通学や、スクールバス導入を要望。
子供が希望する学校に行かせたい。なぜ近い日吉中学校ではなく、遠い近見中学校に行かなければならないのか、現在の校区制度に不満しかない。
2年前、児童数が主な理由で乃万小学校校区に移住。今のところ満足しているが、市内の小学校の児童数に偏りがあることを懸念。少子化が進む中、移住者が多い今治市だからこそ、児童数の偏りを解消するための取組を率先して行ってほしい。
安全な通学路の確保と、保護者の意向を尊重した柔軟な対応を求めます。
校区の分け方がおかしい。
常盤小学校が大好きで、校区内で新居を考えているので、校区が少し広がると良いなと思った。
校区の端に住む児童は、早朝から登校しており（車で送迎する子が多く）登校班も組めない状況。徒歩での登校を推進するため、より近い学校への配置や、PTA 活動の見直しを求める。具体的には、PTA 活動を学校主導で運営し、働きながらでも参加しやすい、保護者の負担を軽減するような仕組みづくりが望まれる。
町づくりの結果、学校間の児童数に差が生じている現状に対し、校舎を増築するのではなく、校区の仕切り直しを提案する。スクールバスの運行や無料バスの利用など、柔軟な対応で児童数のバランスを整えるべき。時代に合わせてやり方を変えることで、より良い教育環境が実現できると考える。
乃万小学校の児童数が多すぎる。しまなみヒルズ辺りに一校建てて一校当たりの生徒数をできるだけ平均値に近づけて欲しい。
支援級増加で教師の負担増。マンパワー不足で理想と現実の乖離。現場の声を聞き、配置を工夫すべき。学校規模より、配置が重要。

統合（賛成）について

少子化でもクラス数が減っていないため、教員が不足している。統廃合を進め、通学距離が問題ならスクールバスを導入するべきだ。子どものためにも学校はどんどん改善していくべき。
スクールバスを活用し、学校の統廃合をすすめるべき。

少子化により学校も合併し通学距離が遠くなったりもするのは仕方がないので、集合場所からのスクールバス運行なども必要になってくると思う。
1 学年 10 人をきっている、または全校生徒が 50～100 人未満の学校は統合すべき。
学校規模が大きくても、一人一人に目が行き届く安全な環境であれば良いと考えている。しかし、通学時間短縮のため、地域に密着した学校が望ましい。スクールバスでの遠距離通学より、近隣の学校でオンライン授業を希望する。現状でもフォローが行き届いていない部分があるため、更なる児童へのフォロー不足が懸念される。
今は 1 クラスしかいないため、合わない友達がいても、クラス替えがなく、逃げ場がない。人数が少なくても、クラス分けが出来るようにしてほしい。
少子化による学校統廃合は避けられない状況であり、桜井小学校の小中一貫教育導入に賛成。教員不足の解消や問題児への連携指導による授業の質向上につながると期待。しかし、校区内に中高一貫教育の学校が存在するため、その点の調整が必要。一日も早く教育現場の現状を改善し、児童の学力向上を目指すべき。
一学年最低でも 15 名以上はいた方がいいと思う。10 名以下のクラスでは先生が目が行き届き過ぎて、子どもたちが窮屈さを感じ、学校に行けなくなる友人が複数いる。色々あると思うが、小さな学校は統合された方がいいと思う。
現在、子供のクラスが 40 人を超え、教室が満員の状態。多人数のクラスでは、子どもたちが窮屈に感じ、先生も一人一人に目が行き届かないことが懸念される。少人数の学校と比べ、教師からの個別指導の時間も少ないと感じている。教師不足が原因と考えられるが、小規模校の統合を進め、各学校の教育水準を均一化すべき。
少子化で児童数が減少し、部活動やクラス替えの機会が減り、学校生活でのトラブルが増加している。学校統合を進めるべき。
先生不足の中、学校現場は厳しい状況。集団生活を学ぶため、1 クラス最低 20 人、2 クラス以上の学級編制が望ましい。小学校統合と通学バス導入を検討すべき。
今後、児童数が減少するのは確実なので学校の統合、閉鎖が行われることはしかたのないことだと思う。
学校規模縮小で教員数が減り、1 人当たりの業務が増加。教員が子どもに十分な時間をかけられない状況。学校の適正配置を進め、教員の負担軽減を図るべき。
中学生は、多様な友達と関わることで人間関係を築くことが重要であり、そのためには通学距離が多少長くても多くの児童が集まる学校に通うべき。保護者は子ども自身で課題を解決できるよう指導すべきで過度な関与は控えるべき。
例えば亀岡小学校では近くに菊間や大西があるのに人数が少なく、ゆったりと過ごせている部分もあるが、もう少し人数のいる中で過ごしてもいいと思う。
校区の範囲を過去のならわしや大人の都合で考えるのではなく、子どもたちにとってより良いものになるように変えていくのも大切だと思う。
昔と違い人数が少ないので人間関係が難しい。例えば、学校数を減らし、人数が増えるのも良いと思う。
ある程度統合するのは良いと思うのですがスクールバスの充実があれば助かる。

小学校は徒歩圏内が安心、中学校は自転車ですり遠くても可。10人を下回る少人数クラスは統合を検討。中学校は複数の小学校の生徒が混ざるように。通学手段は様々だが、15分圏内が望ましい。
鳥生小学校と立花小学校は同じ小学校で良いと思う。
教師不足で教員一人一人の負担が大きいと感じる。学校統合で教員増、負担軽減を。通学手段確保も必須。
児童生徒数が減っている学校は、統廃合を検討すべき。教育環境の改善や教員不足解消、経費削減につながる。
生徒数が少ない学校では、PTAへの参加機会も増える。保護者の負担軽減のためにも、学校の適正規模を見直すべき。

統合（反対）について

通学に時間がかかるのもあり、これ以上減らすのは負担になるためやめてほしい。保育所も数カ所減って、困った。
国分小学校がなくなるのは反対。
生徒、児童の人数が減って合併ということになると通学距離が伸びると思う。通学距離が伸びるぐらいなら、1学年1クラスとか、1クラスの人数が少ないほうがいい。
子どもは学校の統合に反対。遠くなることや、好きな学校を離れることに抵抗を感じている。クラス替えは中学以降で良いと考えている。子どもたちの意見をもっと聞いてほしい。
今通っている学校がなくなるとしたら困る。
現状でよい。
清水小学校は残してほしい！！なくなったらどこに通うの？富田小学校？スクールバス？？南中学校も残してほしい。
校舎の老朽化に関わらず、校区の人口が多い学校を残すことが重要。学校がなくなると通学距離が延び、人口減少が加速し、地域に新たな住民が定着しにくくなる。地域の人口維持と児童生徒の負担軽減のために、学校存続が不可欠。

通学について

生徒数に対して西中学校の駐輪場が少ないので増やしてほしい。境界線ギリギリのところなので、毎日重い荷物を背負って通学するのが大変。
乃万小学校の通学路が遠すぎると感じている。西中学校の通学ルールも不合理（徒歩と自転車の境界）で、休日の遊び場も狭く子どもたちの自由な行動が制限されていると感じる。もう少し子供たちが自由に遊べる環境にしてほしい。
南中学校の徒歩通学強制範囲2.5kmは、危険で時代遅れ。松山市の高校でも2.0kmだったことを考えると、特に人が少ない今治では防犯上不適切。自転車通学範囲の拡大や、保護者による送迎対応など、より安全な通学手段の確保が求められる。

通学が徒歩圏内ギリギリの所だが、荷物が凄く重い日はかわいそうになる。各学校自転車置き場が少なかったりするのわかるが、もう少し徒歩の範囲を狭くしてほしいと思う。
中学生でも重い鞆を背負って 30 分歩くのはさすがにかわいそう。自転車通学を希望制にしてほしい。
使い回しされてる、変わりのないアンケート。真面目に答える気が消える。不審者が心配で朝は集団登校に任せるが、夕方は車で迎えに行ってます！これが現状！学校はどう思うのよ？これが適切なん？こっちが聴きたい。何か起きて泣くのは親ぞ？
近年、登下校中の熱中症が問題になっている。我が子も下校中、熱中症で嘔吐したことがあり、日傘使用を許可してほしいと学校に相談したが、安全上の理由から却下された。熱中症アラート時は対策が取られるが、登下校中の暑さ対策が不十分で、保護者は不安を感じている。日傘の使用を許可し、使用方法を指導することで、熱中症リスクを軽減できるのではないか。
日吉中学校の自転車通学の範囲を拡大してほしい。
立花中学校の自転車通学の範囲を拡大してほしい。
距離に限らず自転車通学にしてほしい。
中学生は希望の人皆が自転車通学できるようにしてほしい。
不登校の子どもを持つ親として、子どもが安心して通えるフリースクールなどの選択肢を増やしてほしい。経済的な負担が大きく、子どもを自由に通わせられないのが現状だ。行政による補助や支援を強化し、子どもが安心して自分の行きたい学校に通えるようにしてほしい。親は送迎の負担も多く働き方も制限されるため、支援体制の充実を求める。
教科書等の荷物が重すぎて、成長過程に差し障りがあるのではと心配。
夏だけでも徒歩 20 分以上の通学生徒には、暑さと荷物の重さを考慮し、自転車通学を許可してほしい。
夏の暑い時間の下校は熱中症の危険があるので、下校に時間がかかる児童については、その期間だけでもスクールバスを検討してほしい。特に低学年。
中学校に上がった時、歩きで登下校するには遠いのではないかと感じている。もう少し、西中学校の自転車通学 OK の範囲を広げてほしいと思う。
家が近くても荷物が重たい時は、自転車通学がいいなと思った。
小学生の通学距離が長いと、安全面だけでなく、荷物の重さによる身体的な負担が大きという問題がある。特に低学年の児童は体が小さく、重い荷物を持って長距離を歩くことは負担が大きすぎる。特に悪天候時や、夏場のプールセット・書道セットなど荷物が多い日は、より負担が増加する。通学距離が長い児童に対しては、安全対策だけでなく、身体的な負担を軽減するための対策が必要。
桜井中学校に通うが、自宅から学校までの距離が規定に満たないという理由で自転車通学を許可されていない。最短ルートは危険な道を通るため、不審者に遭遇する危険性があり、かなり心配。同程度の距離に住む生徒は自転車通学を許可されているため、納得がいかない。何か事故が起こる前に、学校側に改善を求めたい。
小学校登校方法で集団登校を採用しているが、集合時間が早く感じている。

学校統合はやむを得ないが、統合に伴う通学時間の長時間化が懸念される。現在、朝は 7 時 10 分には家を出ており、他の児童と比べて 15 分の差があるため負担が大きいと感じている。統合により通学時間が長くなる場合、始業時間を遅らせるなど、児童の負担軽減策を講じてほしい。
日吉中学生だが荷物がものすごく重たくて登校中の姿勢が悪く体への負担が心配である。自転車登校許可の範囲の見直しをお願いしたい。
乃万小学校から今治北高校にかけての県道は、いつになったら歩道を作るのか。いつ事故が起きてもおかしくない。
難しいのは承知の上だが、児童の安全のためにも、距離がある場所に住んでいる場合、バス通学もできればいいなと思う。
西中学校の自転車置き場を増やし、自転車通学 OK の距離範囲を増やしてほしい。
真夏の帰宅時間が暑い時間なので、距離が長いと心配になる。
乃万小学校で通学路の見直しアンケートが一度ありましたが、通学路を把握していない親御さんも多いため、もう一度見直しして安全かつ距離が短くなるように努めてほしい（しまなみ学団）。
中学生の自転車通学区域をもう少し広げてほしい。
夏季の長時間の徒歩通学は熱中症のリスクが非常に高まるため、登下校用のバスを設置してほしい。
児童安全のため通学バス制度を取り入れてほしい。
徒歩圏内でも自転車登校にすべき。昔と治安がちがいすぎるから。
（日高小学校）安全な道で通えるように願います。
西中学校まで歩いて行くには遠いので自転車通学の規模を広げてほしい。
登校時間が早すぎるので、改善してほしい。
通学時間が長いため適切で安全な通学路確保をしていただきたい。通学路見直しを強く望む。
合併による通学距離の増加とタブレット使用による健康への懸念から、ランドセル廃止とスクールバス導入を要望する。タブレットや教科書の廃止、プリント学習への移行も提案。ランドセルや教科書は関係機関との利害関係を疑うが、より児童生徒の負担を軽減できる教育環境を求める。

校区外通学について

居住学区以外への通学をもっと自由に選択できるようにしてほしい。
小学校の校区について、住んでいる場所で予め決まっていることも大事だが、明らかに隣の校区小学校が近い場合など、登下校の防犯面も考慮し、近くの小学校を選ぶ選択肢も増やしてほしい。
不登校問題が多発しているなか、校区に限らず、子どもと親が望むのであれば、安全な登校を条件としつつ、もっと柔軟に行く学校を選べるようにする、ということも視野に入れても良いのではないかと思う。
中学校の校区で明らかに校区外の方が近いのに住所で遠い校区の学校を指定されるのは、納得できない所がある。境界付近なら柔和に判断する権利がほしい。
人口が偏るのは仕方がないとも思う。子どもが行きたい小学生や中学校を、校区外でも選べると良いと思う。

県、市などが定める越境入学の基準の見直しを求める。
中学校になっても、校区変更をしたまま進学したい。
家の場所的に日吉中学校の方が距離は近いと思うのですが、近見中学校区になっているのが疑問。通学距離を考えたら日吉中学校にしてくれてもいいのではと思う。
広域から通学できる学校を作ってほしい。地域に開かれた、少人数でアットホームな学校を求める。（西条市の）田滝小学校のように、子どもたちの個性を尊重し、社会体験を通して成長を促す教育を実践してほしい。特に、やんちゃな子も温かく受け入れ、その子の才能を引き出すような教育が理想である。
子どもの希望する学校で学ばせることが理想。特に進路が分かれる別宮小学校では、子どもの将来や友達関係など、保護者の悩みは深い。校区外の選択肢も必要だが、家庭の事情や子どもの希望が叶うとは限らない現状に課題を感じる。子どものやる気や将来を考え、学びたい学校を選べる環境を整えることが重要だと感じる。
住所や部活動関係なく、行きたい学校に行けるようにしてはどうだろうかと思う。
経済的都合から引っ越したいが、転校せず隣の校区から通うことを希望したが、制度上選択肢にならない現状を改善してほしい。
校区外通学の幅をもっと自由にしてほしい。
学校選びは柔軟に考えてほしい。リモートワーク時代であり、先生の負担を増やさない柔軟な対策もあると思う。
生徒の個性に合わせたクラス編制と、防災拠点としての学校の役割の両立を求める。校区外通学の面談は不要とし、今治市全体で希望の学校に通えるようにすべき。

学校施設について

登下校路の安全対策と学校のトイレ環境の改善を求める。具体的には、川沿いの通学路のガードレール設置や草刈り、小学校トイレの洋式化などが挙げられる。子どもたちが安全に登下校でき、安心して学校生活を送れるよう、環境整備が急務。
地区役とか不透明なものがあり、それも学校規模に左右されているので親の負担も不公平だと思う。現場の先生たちは本当に丁寧に子どもに関わってくれており頭が下がる。
乃万小学校の運動場と駐車場が狭すぎる。行事のたびに早く行かないと車を停められないので小さな子どもを連れて行くには大変。運動会も狭すぎてぎゅうぎゅうなのでどうにかしてほしい。
乃万小学校は児童数の割にグラウンドが狭いと思う。
現在通っている乃万小学校は、児童数が多いので昼休みや運動会で運動場を使う時、少し狭いのかなと感じることがある。
乃万小学校は生徒数の割に運動場等施設が狭く感じる。
どの学校も施設の老朽化が深刻。スクールバス導入や校区見直しを。少人数校は特色ある学校づくりを。児童生徒の学習環境最適化を最優先に。
学校が避難所になることを考え、学校建替え、移転、修繕等も検討してもらいたい。

児童生徒数や学級数の調整は難しい。学校設備を新調するなど子どもたちが快適に過ごせる環境を整えることや給食費無料化の方が重要。
乃万小学校の児童数は多様な社会性を発達させるには適切と考えるが、施設の老朽化と狭さにより、のびのびと過ごせていない。また児童館もなく子育てをサポートする意識が欠けている地域コミュニティの未熟さが問題。地域の同調圧力が強く、居場所がない子どもがいる。可能なら校区外通学を希望する。
制服にベストがあるのが望ましい。荷物が重いので、学校が近くても自転車通学にしてほしい。洋式トイレにしてほしい。体育館に冷房完備してほしい。

教育環境について

少人数校は部活動の選択肢が少ないが、活躍の場を得やすいというメリットも。学校によって学力差が生まれないよう、教育の質を均一化してほしい。
子どものためにも教員の業務改善を図り、余裕のある人材確保をお願いする。
クラスの人数もよいと思うが、もう少し発達障害児に対して勉強している、寄り添える先生が増えてほしいと思う。
学校数を削ると通学も避難も大変なので、学校の規模や減っていく児童数に見合わない活動の方を削って良いと思う。
子どもたちの心の安定を重視し、教員の負担軽減を求める。教員の増加や担当児童数を減らせば、よりきめ細かな対応が可能になると考える。先生方もワークライフバランスを保ち、子どもたちに質の高い教育を提供できるよう、環境整備を求める。
学校それぞれで生徒数が多かったり、少なかったりするが療育に通っている、又は療育が必要な子が増えてる中で生徒 30 人に対して担任が 1 人の体制を変えて行く必要があると思う。副担任またはクラスをサポートする先生が何人か必要だと思う。
1 学年 1 クラスでは、運動会などでのクラスの団結力が弱まり、いじめ問題への懸念もある。クラス替えを導入し、少人数クラスで教師の目が行き届くような教育環境が望ましい。余っている教室を有効活用し、より良い教育環境を整えるべき。
他県の取組を参考に、先生 1 人あたりの負担を軽減し、より良い教育環境を整えるべき。子どもの大切な時期が無駄になっていることに憤りを感じる。
小規模校の部活動の少なさによる生徒の流出が問題。地域が衰退する前に、部活動の地域移行を検討すべき。また、小規模校と大規模校の学力向上への取組の差を解消すべき。
入学時、児童数が基準より少なかったため、教室いっぱいの 2 クラスになった。子どもの配置人数ではなく個々の生徒の問題や発達を含めクラスの人数を決めてほしい。
30 人を超えるクラスを担任が 1 人で見るには限界があると思う。時間通りに授業や移動、準備を進めていくにあたり、イレギュラーな問題が起こった時に適切に対応できるか疑問。
生徒数が多い学校と、少ない学校の差が激しすぎると思う。
学校は、地域のためという考えもあると思うが、一番は子どもたちのため。子どもの選択肢を増やしてあげてほしい。

少子化の時代にあっては、金太郎あめの教育ではなく、個性を伸ばす教育が必要だと思う。
学校の授業に投資の勉強を取り入れてほしい。
小規模すぎても大規模すぎても子どもたちにとってしんどくなる環境になりやすいと思う。イジメや仲間はずれば先生の目の届かないところで行われる。風通しの良い環境を作る事が大切だと思う。
1 クラスの人数を 20 人程度に少なくしてほしい。一人一人に目も届くし、教室も以前と違い、クーラーやタブレット置きなどあり狭そう。
人数変動に対応するため、学校は少人数制や教師増員など、子ども一人一人の成長に合わせた工夫が必要。普通学級だけでなく、支援学級においても同様の対応が求められる。
生徒の事だけでなく先生の視点からも 1 クラスの生徒数を現状よりも減らすべき。先生の負担を減らすことはひいては生徒のためにもなると考える。
少子化などにより、学校規模の見直しが必要。教科担任制やスクールソーシャルワーカーの活用など、教員の負担軽減と児童生徒へのきめ細かい支援を期待したい。不登校や保護者対応など専門職に委託するなど教育環境を整えるべき。
子どもが安心して過ごせる学校になればいい。
発達障害など、多様な子どもへの教育には、少人数クラスと十分な教員配置が不可欠。特に小学校入学時は、今後の学校生活に大きな影響を与えるため、担任だけでなく副担任を置くなど、きめ細かい指導体制が必要。20 人前後の少人数クラスが望ましい。
教員数が減少し、働き方改革により学校行事などが縮小。その結果、教員の負担が増大し、子どもへの影響も懸念される。教員配置や業務の見直しなど、教員側の負担軽減が優先されるべき。
小学校の校門に喫煙所を設置しているのはおかしいと思うので完全禁煙と喫煙所撤廃を望む。
近見小の特別学級の先生の異動が頻繁で、子どもたちの負担になっている。通学の不便さや、学校統合のうわさなど、地域の中学校に通わせたいが、現在の制度に不満がある。中学校受験は不要であり、義務教育は地域の学校に通わせるべきだと強く主張する。
明らかに不適格な教師の再教育を求める。
どのクラスにも配慮が必要な児童が増えているため、各クラスに副担任や補助の教員を配置し、少人数化することで、より質の高い教育を提供すべき。しかし、クラス数や職員の増加は学校運営に負担をかけるため、実現には課題がある。
児童虐待、体罰など無いよう先生にしっかりしてほしい。言葉遣いも考えてほしい。八つ当たりを児童にすべきじゃない。宿題は学級が違っても量を揃えてほしい。
1 クラス 30 人以上の小学校低学年時、先生に質問しても後回しになった経験から、1 クラス 30 人以下を希望。中学校はクラス数が多くなり学習や部活動、心のケアなど、一人一人に目が行き届かず、子どもたちの成長に影響が出るのではないかと心配している。
西中学校は良い先生が集まっており、学力も高いと聞いている。生徒数も多いので先生も多くなり色々な先生が集結されるのだと思うが、同じところに長年いるのではなく、市内均等に先生を回してほしい。また、隣接する中学ならどこに行くか選択させてほしい。
1 クラスの人数が少ない方が先生の目も行き届きやすくなり、業務量削減になると思うので、両者にとってより良いものとなると思う。

現在通わせている学校の規模で考えると、学級数が増えるとその分教師の人員確保や教室の確保も大変になってくると思う。難しいとは思いますが、無理の無い範囲で先生方の負担が少しでも軽減されることを願っている。
学校間での環境の差を少なくしてほしい。また、人数に応じた設備の拡充も必要かと思う。例えば、教室や体育館、グラウンドの広さや設備の数、教員数は生徒数に応じたものになっているか、学校間の格差はどれくらいか。
少人数クラスでも、子どもへの目が行き届いていない現状に不満。勉強に集中できない環境や、授業中の荒れに問題を感じている。教師の資質向上や、支援員増員など、よりきめ細かい指導を求める。
中学入学を控えている方が、昭和時代のまま変わらないブラック校則や、制服の多様性への不満を訴えている。特に、制服のデザインが学校によって大きく異なる点に不満を感じており、市内の中学校で統一された制服を希望する。
子どものしたいこと、未来への選択に対してもう少し寛容であってほしい。否定せず、背中を押してやってほしい。保守的すぎる。未来を背負う子どもの芽を摘むような言動は控えてほしい。
近見中学校はほぼ近見小学校のみで、子どもたちの変化がない。小学校でなじめない子がそのまま近見中学校には行きにくい。
地区ごとの児童数に偏りがある。
学校ごとの制服の指定を辞めたらいい。
小学校の中学年になり、問題行動を起こす児童がいる。先生は授業に集中していて、問題行動に気づきにくい。他の先生のサポートが必要。
小学生といっても1年生と6年生では大きな年齢差がある。周りを取り巻く環境や家庭環境もその間で変化するため低学年と高学年で分けてクラス編成やクラス人数が変更できたらよい。
子どもたちが安心して通えるよう、教員が子どもたち一人一人と温かくゆったりと対応できる環境を作っていただきたい。教員の負担になるような事務的な仕事をできるだけ軽減すべき。
先生の負担軽減のため、副担任の配置や保護者教育が重要。先生が疲弊すると生徒にも悪影響が出ると考え、保護者にもっと子どもの教育に関わってほしい。子どもの未来を教師に任せ過ぎている保護者が多い現状を改善する必要がある。
小学校統合による通学距離の延伸と生徒数の減少に懸念。幼少期からの長い通学は子どもに負担が大きく、少人数制では人間関係形成や学習に支障が出る可能性がある。安全な通学路確保、適切な生徒数、いじめ対策などが求められる。
学年の児童数を分ける考え方として、80人に満たなければ2クラス、80人以上であれば3クラスになるという分け方ではなくて、先生1人当たりの生徒数で考えた方が良いかなとも思う。
問題のある児童への対処に不満を感じる。加害者が堂々と登校し、被害者が不登校になる現状を変えてほしい。もっと学校外の第三者機関が積極的に関わって対処してほしい。
小学校の登校時間が他県と比べて30分以上早いと思われる。そのため、教職員の勤務時間や負担が大きくなっている可能性がある。学力調査の結果や教員不足の問題を踏まえ、登校時間の早朝化の意義に疑問を感じており、見直しを求める。
先生がいつも疲れているから、先生の数を増やしてほしい。

小学校低学年の間は、担任の先生だけでなく、サポートする先生が複数いるべき。担任が忙しく、子どもたちが質問しにくい状況がある。低学年の子どもたちは学校生活に慣れていないため、複数名の先生が対応することで、より丁寧な指導が可能になる。
今治市内に文教地区を設け、公立の小中一貫校を設立することを提案。特定の学校への人気集中を避けるため、吹揚小学校や別宮小学校など、児童数の少ない学校に他校区の児童も受け入れるべき。習い事などで他校区の子と交流する機会が多いことから、校区の壁を取り払い、児童の選択肢を増やすべき。
1 クラスになるなら、1 学級の人数を減らしてでも複数学級にしてほしい。児童や先生のために！
うつ状態で通学している。精神的にクールダウンできるスペースが欲しい。現状では空いている教室スペースがなく、保健室も常に開放されているわけでもないので、常に緊張して過ごしている。
教職員の負担軽減のため、1 クラスの生徒数を減らし、複数担任制を検討すべき。教職員の心の状態が生徒に影響するため、教職員の働きやすい環境も重要。保護者の意見だけでなく、教職員や様々な意見を聞き、子どもたちが安心して学べる環境づくりを求める。
児童数や学校規模の見直しと、教員の負担軽減が急務。児童が安心して過ごせるよう、少人数制の学校など、特色のある学校を拠点校として整備すべき。
公立中学の選択肢を増やし、勉学特化型やスポーツ特化型など、生徒の個性や適性に応じた教育が受けられるようにすべき。特に、支援学級出身の生徒やその保護者の負担を軽減するため、オンライン授業を取り入れた新しい形の学校も必要。
小学校高学年では 40 人学級は狭く、先生も目が届きにくい。低学年は一人一人に目が行き届くよう、20 人後半から 30 人前半が望ましい。学校統合は仕方ないが、スクールバスの運行など、児童の負担を減らす対策が必要。
少人数クラスと教員増によるきめ細かな指導を求める。障害のある子どもも学べる環境で、多様な人が共存する社会を学んでほしい。
小学校も担任と副担任をどのクラスも配置してほしい。学校が遠くて登下校が心配なのでスクールバスを出してほしい。
クラス運営が安全安心でなくなることがある前提である程度のマニュアルを作り、迅速な対応ができる環境であってほしい。
暴言、モラハラを言う教師を配置しないように願う。「教育委員会に言ってみろや」と生徒を煽る教師がいた。学校は、安心して通わせられる場であってほしい。
サポートルームの開所時間を延長し、教員と福祉の専門職を配置して、子どもたちの学びと安全を保障してほしい。スクールソーシャルワーカーの相談体制も整備を求める。
担任を 2 人制にし、学校に冷凍庫を常備してネッククーラーなど下校時につけられるなど熱中症対策を求める。PTA 活動は保護者負担を最小限にしてほしい。
教員不足、支援級の専門性不足、不登校支援不足の課題など、多様な子どもに対応するための学校側の体制強化が必要。
校区外に通うのは部活動以外に人間関係が理由のこともあるので柔軟に対応してほしい。保護者の負担軽減のためにも通常時は黒やグレーの靴下も可能にしてほしい。

クラス人数が多すぎると、様々な面で手が足りずトラブルも起こってくると思う。30 人以下のクラス人数だと、先生方も目が行き届き、負担が軽減するのではないかな。
今現在ひとクラスの人数が 35 人を超えていて、先生の目が行き届いているのかなと不安になることがある。
課題を抱える児童増加に伴い、教職員の質向上と研修の必要性が高まっている。特に、不登校児童への支援体制の強化と、ベテラン教員のスキルアップが求められる。
児童 1 人当たりの公費投入額を当然に考慮すべき。また、1 学年が 10 人未満の学校って、そもそも学校の役割が正常に機能してるのか疑問。
学校情報開示と客観的な比較を求める。少人数クラス編制に際し、教員配置の公平性と児童への配慮が不足している。地域単位での教員共有や行政による外注化など、多様な選択肢を検討すべき。
学年 1 クラスで定員いっぱい的人数となっており、1 クラスにするととても多く感じる。一人一人に目が届くような環境をつくってほしい。
校区外通学を希望するも、柔軟な対応がなく残念。徒歩圏内の学校に通わせたいが、校区の壁に阻まれ、子どもの負担が大きい。学級数は学年によって変動させ、低学年では少人数制、高学年では多様な意見が交わせるような環境が望ましい。
問題行動のある児童増加に伴い、教員の負担が大きい。クラス数や人数だけでなく、教員一人当たりの児童への対応力、特に問題行動のある児童への対応力が不足していることが問題。
子ども 2 人は今のところ楽しく通学している様子。塾など習い事代が高額だが行く子が多い。昔に比べてひとクラスの子どもの数が少ないので、子どもが勉強につまずいたりしたままにならないよう気にかけていただき、まず学校でしっかり教えていただきたい。
1 クラスの人数が多いと、指導が行き渡りにくい他、参観日も見にくく不便である。
支援員さんを増やしてほしい。
子ども第一をやめて先生第一で運営して問題ないと思う。いろんな親がいるが、惑わされず先生にとって最善と思える学級運営ができますように。
教室の人口密度が高く、感染症の流行期が心配。
学級人数の考慮をするとともに、教職員の数を増やして先生方の負担を軽くし、先生方が余裕を持って児童生徒に関われるようにしたらいいと思う。
運動場が狭く、昼休み時の見守りが不足している。音楽発表会などの保護者への公開機会を増やし、子どもの頑張る姿を共有したい。
少人数で静かな学校も選択肢として必要。子どもの個性を考慮し、最適な学校を選べる環境が望ましい。
支援級の担任の当たり外れに困っている。子どもの特性に合った先生を配置してほしい。
教室がパンパンになるほどクラスの人数がいる。(40 人オーバー)教室の広さに対してもう少し人数を減らしてもいいのではないかなと思う。
沢山の人数を一人の担任がみるのは大変である。20 人から 30 人くらいで一人の担任か、もっと多いなら、担任副担任制にした方がよい。
主要科目だけでも少人数クラスで学習することで、基礎をしっかり学べる環境がほしい。
学級人数を 20 人以下にし、教師を増やして一人一人に目が届く教育環境にしてほしい。

学習や情緒の発育の基盤となる小学生こそ、自己肯定感を持てるように、細やかな指導が行われることが重要だと思う。
児童の多様化により、担任の負担が増大。教科担当制導入で負担軽減を図るべき。教員増が課題。
教員不足、保護者意識の低さなど、学校を取り巻く環境は厳しい。事務職員配置や少人数化で教員の負担を減らし学校が抱える課題を解決してほしい。地域と連携して持続可能性を考慮しつつ、災害対策など子どもの安全確保にも力を入れる必要がある。
現在約 35 人×2 クラスは、先生の目が行き届かないのではと思う。もう少し密に個々長所、短所を見ていただきたい。
小学校の選択制は、子どもの性格や家庭の事情に合わせて選べるので良い。しかし、情報不足で判断が難しく、結局は近隣の学校を選ぶケースが多い。より詳細な学校情報提供や体験入学など機会を増やすことも必要と思われる。
生徒数が多すぎて教師が、子どもたちのことを把握できずいじめやトラブルなど起こらないか心配である。教師の負担も大きくなり両者への悪影響が懸念される。
教師のハラスメントを指導する機関が無いため、早急に作ってほしい。
1 クラス 20 人程度が理想。教員の負担軽減を。教員確保と働き方改革を行い、子どもたちの学力向上と安全な学校環境の実現を。
支援クラスへの配慮を充実してほしい。先生一人ではなく支援員をつける。一人になりたい時に一人になれる個室を設けるなど。
中学生になると色々と難しい問題も出てきそうなので、なるべく 1 クラスの人数を少なく（25 名程度）で先生の目がいき届きやすいといい。
小学 4 年生のクラスが 38 人で手狭。コロナ感染リスクも高く、先生も目が行き届きにくい。先生への負担が大きいことが懸念される。人材不足は承知だが、もう少し余裕のある教育環境にしてほしい。
担任の先生の負担が大きいと感じている。家庭環境や進路の多様化により、教員の業務は複雑化している。生徒一人一人に丁寧に対応するためには、教員の業務量を見直し、適正な負担にする必要がある。
小学校の低学年の 1 クラスの人数は減らして欲しい。20 人ぐらいの人数でないと、先生の指導が出来てないように思える。
小学校の数に比べて、中学校が少ないと思う。
イジメなどないか見直してほしい。
学校の規模が合わず不登校になった子どもが、もっと早く適切な情報や支援を得られるよう、情報提供の充実を望む。
低学年には学校生活に慣れるために優しい先生が良いが、高学年になれば指導力がある先生を希望する。
少子化により学校を減らすのではなく、子ども一人一人に寄り添える環境をお願いしたい。
公立なのである程度、フラットな状態が望ましいと思う。
勉強が遅れている子にしっかりサポートしてもらいたい。

通級指導教室が小規模校（吹揚小学校や立花小学校）に偏っている。大規模校への設置や各校への配置を希望。保護者の送迎負担軽減のため、通いやすい環境を整えてほしい。
1 クラスの人数を少なくして、先生の目が届きやすいようにしてもらいたい。
現在の教室は狭く、タブレット収納庫などもあり、学習環境が悪い。クラスの数が多いため、先生に目が行き届かず、子どもたちが放置される状況が心配。
障害、いじめなど、子どもが抱える問題は多様。小学校での指導の偏りや、学習指導の放置が問題。公平公正な判断と指導を要望。先生方は自分の子を想像し、対応を見直してほしい。
個人個人の学力に合わせた、教育をして頂けるようにしてほしい。もっと、勉強が遅れている子にアフターフォローを入れてほしい。
制服を松山みたいに統一してはどうか？市内で引っ越しした場合制服を買い替える事が負担。
1 クラスの人数を少なくしてほしい。
日高小学校 3 年、授業中の私語や席離れが常態化。先生への反抗、暴力行為も。親への報告と家庭での指導、専門機関への相談が必要。先生への負担も大きく、学校だけでは対応できない。
ランドセルの重さを見直し、通学時間が多少長くても健康面に配慮すべき。3 クラス以上は交通トラブル増加の懸念がある。運動会は 1 日の場合、保護者の負担が大きいので、駐車場など、保護者の負担軽減策も検討すべき。
習熟度別の学習ができることや、通常級の中でフォローが必要な子がお客様になってしまわないよう、柔軟な対応が必要かと思う。特に算数。
SDGs を教えるならプリントを減らしてデジタル化を。先生の手間を省き、ゴミを減らし、カラーで写真等が見られるとよい。
塾に行けない子も学べるよう、学校での学習支援を強化してほしい。特に中学校では、部活動と学習の両立を支援する体制づくりが求められる。先生方の負担を減らし、生徒一人一人に目が届くような教育体制を求める。
現在のクラスは 36 人とやや人数が多いと感じている。一人一人に目が行き届きやすい 30 人程度のクラスが理想。
通級指導教室が各学校にあればと思う。
現在のクラスは人数が多く、先生も生徒も苦労している。一人一人に目が行き届く 20 人程度の少人数クラスの方が、より良い教育が受けられるのではないか。
子どもの人数に対して、教師の人数が少な過ぎる。
支援学級に在籍しているが、各クラスに専門の資格や知識を有した教員の配置をお願いしたいと感じることが多い。
教員の多忙により、保護者への説明が不十分である。規模に応じた教員増員を求める。子の学校生活について答えられない先生は保護者として心配である。
ある教諭が、生徒に不適切な発言を繰り返し、やる気をなくさせている。過去にも問題があり、生徒は相談しづらい状況。熱心な先生が多い学校だけに、このような先生がいて残念。適正な配置を求める。
近隣小の児童が重いランドセルで長時間通学する姿を見ると心苦しい。安全面や過疎化の観点から、スクールバス導入を検討すべき。少人数制によるきめ細かい教育も必要。

我が子は学習障害の傾向があり、個別指導が必要。通級は週 2 時間で、もっと個別指導を受けさせたい。通級があるのは恵まれているが、時間が短いことが悩み。
学級は 25 人程度で 2 クラス以上が良い。
支援学級に看護師配置、全校に司書配置を。子どもたちの教育のため、医療・読書環境の充実を望む。
子どもが学校に行きたくないと訴え、学級崩壊が判明。他の保護者も同様の悩みを抱えていた。学校には、子どもたちが安心して学べる環境を整えてほしい。
日吉中学校はすてきな先生に恵まれ感謝している。昔とは違い、個性を引き出す教育が求められる時代。多くの学校で、時には厳しく、生徒一人一人を大切にすることが広がることを願う。
先生の負担が大きすぎる。学校だけでなく、市や県が主体となって、先生の負担を減らすための体制を整えるべき。
保健室がよく閉まっている。いつ熱や体調不良になるかわからないので常時保健の先生がいてほしい。
いじめ問題の深刻化を懸念。アンケート調査の実施や、クラスだけでなく部活動での対応も要望。
中高一貫校よりは、高校受験をみんながするようにした方がいいんじゃないかと思う。
1 クラスの生徒数、1 人の指導者が担当する生徒数を 15～20 人に。ベテランと新人のペアで指導することで、指導者の負担軽減、指導技術の向上、保護者の満足度向上へつながる。
1 クラス 20 人程度に減らし、生徒の個性を伸ばし、学力向上を。先生の負担軽減も。PTA 活動の増加に配慮し、内容を見直し、保護者の負担軽減を。学校数を減らさず、1 クラスの人数を減らすことを希望。
1 クラスの人数が多い。教師の負担が大きく、生徒への目が行き届かない。教師が感情的に生徒を叱責したり、押さえつけたりしている状況にもあるようだが、指導の難しさから、半ば諦めている。
子どもは、大人の関わりに左右されやすい。先生の負担が増大しており、少人数制による子どもへのきめ細かい対応が必要。先生への配慮も不可欠で、子どもの成長できる環境づくりが求められる。
多様性やジェンダーレスが過度に強調され、ついていけない。少子化が進む中、PTA 活動や地域活動の負担が増大。強制参加ではなく、個人の選択を尊重すべき。
多人数クラスの良さを知っている。最近のいじめや学級崩壊などの問題が深刻化する中、教師の負担が増大し、適切な指導が難しくなることを懸念している。
日高小学校では教員不足が深刻で、教頭が担任を務めるなど異常事態。教員増員と質の高い教育を求める。
以前通わせていた広島为学校では、家族で災害時の避難について話し合うという夏休みの宿題があった。この経験は、家族で防災について考える良い機会になったので、他の学校でも同様の取り組みを希望する。
我が子がいじめ被害で引っ越しまでした経験から、学校には子ども一人一人に寄り添い、いじめ問題に真剣に向き合ってほしい。支援体制の強化も求める。
一人一人の個性を把握して一人一人が安全に過ごせる場所が大切だと思う。
新任教諭には副担任を付けて、生徒への指導の質を向上させるべき。学習状況に大きな差が出ている。教員の負担軽減と、生徒の学力向上のため、まずは教師である大人が見て見ぬふりをせず、思

いやりの心を子どもたちに示してほしい。
同じ中学の校区の小学校同士で交流会や共同行事を行えば、中学入学前の不安を解消できる可能性がある。他の小学校との交流機会を増やしてほしい。
子どもが自分の適性や興味・関心に合った学習ができるよう、中学校選択の支援を強化してほしい。保護者としても、子どもに合った学校を選びたいと考えている。
クラス数と教員を増やし、問題を抱える生徒へのケアを強化すべき。現状では、問題児への偏った対応により、真面目な生徒が置き去りにされている。学級崩壊を防ぐため、全ての生徒に目が行き届く教育環境を整える必要がある。
通園した幼稚園や保育園の地域や、校区外に在学中に転居したとしてもいじめや、精神面を配慮して希望すれば、もともと通っていた学校にスムーズに通えるようにしてほしい。
先生が不足し、先生方が無理をたくさんしているのは承知しているが、学校という場所が「先生が怖い」と勘違いしてしまう場所でなければいいなと思う。
立花小学校 6 年生は 2 年前に 3 クラスから 2 クラスに変更されたが、やはり十分に目が行き届いているとは思えない。クラスを減らしてほしくなかった。
先生の数が足りず、中堅の若い先生に負担が多く行っているように感じる。良い先生なので大変有難いが、疲れてしまわないか不安になる。
生徒の多様化により、クラス運営が困難になっている。大規模校では、少人数クラス化や教員増員によるサポート体制の強化が必要。教員不足という根本的な問題も解決すべき。
近見小学校 4 年生は、先生 1 人で 35～36 人であり多すぎる。目が行き届かないと心配。別宮や波止浜への統合は遠すぎる。保護者としては少人数の学校が安心できる。

部活動について

教員の部活動指導の負担軽減（地域参加）
中学校の部活動減少により、やりたい競技ができない子どもが増えている。経済的な理由からクラブチームに入れない子どもは、競技を諦めざるを得ない状況だ。
やりたい部活動が校区の中学にない場合、部活動のみ他の中学で参加できたらいい。
中学校の部活の地域移行の件がどうなるのか気になる。移行する方向で決まっているので、子どもたちにとって残念な結果にだけはならないよう計画的にすすめてほしい。
部活動で、人数が少なくチームが組めない。力があるのに、試合をする機会に恵まれず、非常に無念。近隣の学校と組ませてもらいたい。サッカーや野球など、特定の部活動だけにそれが許されるのは、本当に不公平である。
限られた部活動の枠を無くし、子どもたちそれぞれが興味ある事に取り組める時間機会を与えてあげてほしい。

児童クラブについて

放課後学童の利用に校区による差があり不公平。特に児童館がない校区は、学校の空き教室開放など、他の対策が必要。市は全ての児童に平等な機会を提供すべき。
乃万小児童クラブは低学年優先で、高学年児童の預かりが困難。共働き家庭は放課後の預け先に困る。スクールバス導入で通学中の負担を軽減し、安全確保も図るべき。長期休暇中の預かりや、放課後の学習支援など、子どもたちの安全で充実した居場所が必要。
児童クラブをしっかりと6年まで入れるようにしてほしい。長期休みが特に心配。
清水児童クラブ（指導員）の環境改善を強く希望する。

PTAについて

PTA活動を廃止してほしい。
世帯数が少なくなりPTA役員や地域行事に関わる役員など負担が大き過ぎて辛い。共働き世帯が多い現状、PTA活動の負担を減らす様に対応をお願いしたい。
PTAを廃止し、希望者のみの任意参加にすべき。行事などは参観日に保護者全員で行えばよい。PTAは保護者にとって負担が大きい。

アンケートについて

保護者アンケート実施に感謝。説明会への地域のお母さん方の参加率の低さに驚き、子どもたちの意見を聞くことの重要性を再認識。子どもたちの意見を聞き、説明会では決定事項だけでなく、その背景や理由を分かりやすく説明すべき。子ども中心の今治市の実現を期待。
個々の家庭、お子様により考え方の違いはあるが、先生方側の思う1クラス希望人数や大人数クラスのサポート体制の在り方などについても聞いてみたい。
このアンケートをとっても市民の声が反映されることはないと思うので、意味を感じない。第一子扱いの意味がわからない。本当に子どもたちのことを思うなら現場を見て、子供たちへの配慮をお願いしたい。
生徒数が多い方がよいという前提のアンケートに疑問。合併を進めるための誘導的な質問だと感じている。まずは、少人数と大人数のメリット・デメリットを比較するアンケートを実施すべき。また、アンケート結果の活用方法を明示する必要がある。
みんながわかりやすいタイトルにしてほしい。小中学校の統合のこととか。意見を伝えるアンケートがあることはありがたいと思う。

その他について

先生たちの目が行き届き、さらに丁寧な指導をしたとしても、育った良い人材は結局県外へ出てしまい、戻ってこない。大学と仕事の選択肢、娯楽が少ないので。気候も人柄も良い県だと思うのにとても残念。
統廃合で使われなくなった学校の建物や土地の活用ももっと考えてほしい。

小中学生の保護者のご意見（旧町村陸地部）

統廃合の進め方について

適正配置は、子どもたちの成長を考え、多様な学習機会を提供できるよう、地域全体で議論すべき。一律の基準ではなく、地域の実情に合わせた柔軟な対応を求める。特に、島の高校の成功事例を参考に、小中学校にも選択制を導入することを提案する。
学校の適正化は、法や予算の制約下、多様な意見を調整しながら進める必要がある。校区にとられない学校選択制や、地域コミュニティの維持など、柔軟な発想が求められる。
鴨部小学校の少人数化に伴い、PTA 負担が大きい。九和小学校との合併で校区が変更となる場合、通学距離が遠くなる生徒もいるため、校区の見直しが必要。
少子化による学校の統廃合は避けられないが、歴史ある学校がなくなるのは寂しい。生徒の通学距離や学校ごとの特色も考慮すべき。またあまりにも遠い通学は可哀想だと思う。
子どもにとって何が一番いいのかをまず考えてほしい。大人の都合で進めないでほしい。今後、部活も地域のクラブチームに入ってやってくださいとなれば、お金が無い家庭の子どもは部活動に参加すらできなくなる。悲しいことだ。
この間の少子化対策の話合いで、小中一貫の話が出た。小学校合併（複式学級がなくなる）なら分かるが、小中一貫は、児童にとってより良い環境ではないのではと思う。
亀岡小学校と菊間小学校を統合しても適正基準に満たないので、小学校の統合や小中一貫校にはあまりメリットを感じない。中学校については、この機会に旧町村区域を越えて、菊間中学校と大西中学校の統合も検討してほしい。
少人数の温かい環境もいいが、将来の社会生活を見据え、ある程度の人数で学ぶことも重要。友達関係を通して、様々な経験を積んでほしい。
学校統合による通学費負担増への補償と、島以外の地域への移住促進策を求める。島以外の移住に関してお粗末な対応で非常に残念。各地域の魅力を活かした移住促進策が望ましい。
地域住民の意見に振り回されず、子どもたちの将来のために学校統合を決断すべき。市や教育委員会が中心となり、子どもたちの成長を支援する体制を築くことが重要。
少子化による学校統合は避けられない状況だが、他の地域の小規模校の成功事例を参考に、より良い運営方法を模索すべき。例えば、合同行事の実施や、PTA 活動の負担軽減など、地域の実情に合わせた工夫が必要。また、学童保育の統合による効率化も検討すべき。
今治市内でも人数が多い学校、少ない学校があるが、多すぎるのも少なすぎるのも問題あり。うまく割りふりができればいいが、すごく難しい問題だと思う。

複式学級について

人数が少なくても複式学級にせず、学年ごとのクラスにしてもらうことを願う。
複式学級はやめてほしい。

複式学級には大反対で、特に経験豊富な信頼できる教師配置を強く求める。我が子は現在の担任による精神的な被害を受けており、不眠などの症状が出ている。担任への恐怖から授業を受けることができず、改善をお願いする。

統合（賛成）について

少人数はそれなりにいい事もあるが、先の事を考えると団体行動や友達の作り方などある程度の生徒数が必要だと思うので小学校も合併してほしいし、中学も自由に選んで通えるようになってほしい。

子どもの人数が減ってきたら、クラスの編制が難しくなってくるだろうと理解している。今の時代に合わせて変化していくことは、必要なことだと思う。

今治市内でも学校によっては生徒の人数の多い少ないがあるので、大きな差がないようになってくるといいなと思う。

菊間・亀岡地区は団結力のある地域だが、少人数学級による教育の質低下が懸念される。複式学級にはメリットを感じず、学年当たり 20～30 人のクラス編制を希望する。学校の統合を進める際には、事後の対応をしっかり行うことが重要。子どもたちの未来のために、地域の皆さんが協力して動いてほしいと願う。

少子化によって周辺の学校と統合するのは前向きな行動として良いことだと思う。

学級人数が少なすぎるので、早く統合を進めてほしい。

複式学級になるくらいなら学校統合の早期実施を希望する。少人数教育より生身の友達との交流や質の高い教育を求める。教師不足問題の解消と、生徒・教師双方に負担の少ない教育環境を目指すべき。鴨部小学校と九和小学校の統合を提案する。

学校規模を大きくしてほしい。通学に距離が長くなるので、通学バスを運行してほしい。

統合（反対）について

規模と配置のアンケートを取る意図が分からない。小規模校の良さや地域への貢献を理解してほしい。学力も保障しつつ、地域に根ざした学校を残してほしい。大人の都合による効率化ではなく、地域の過疎化も考慮してほしい。

僻地で規模が小さい学校も、都会で規模が大きい学校も、それぞれが特徴ある学校であってほしい。規模が小さい、人数が少ないからといって合併や閉校せず、規模が小さい、生徒数が少ないことを特色として、学校を維持していただきたい。

地域に根付いた学校は、地域活性化の核となる。学校規模よりも、地域に合った教育環境の整備が重要。リモート授業の活用など、柔軟な教育形態も検討すべき。

近隣の小学校の同学年同士で交流などがあれば、学校の人数が少なくても良いのでは、と思う。例えば、波止浜小学校と波方小学校など。

小学校の統合に反対。小規模校の利点を活かし、地域に根ざした教育を継続すべき。中学校は統合を検討しても良いが、生徒の選択の自由を保障し、教員の配置や教材共有などで効率化を図るべき。

途中で学校が変わるなどは子どもも親も望んでいない。環境が変わる事によって子どもの精神的な面で負担になる。
子どもが自分の足で通学できる範囲の地域にある学校の存続を願う。
なるべく遠くに通わしたくない。地域の方々との交流や親の働きやすさも含めて過ごしやすい学校にしていきたい。
亀岡小学校の統合に反対。小規模校の利点を活かし、地域に根ざした教育を継続すべき。移住者として保育園・児童館・小学校がなければ選択しなかった。菊間中学校は大西中学校との統合を検討しても良いが、生徒の選択の自由を保障し、教員の配置や教材共有などで効率化を図るべき。
生徒数が少ないことを理由に安易に統合すべきではない。子どもたちが地域に愛着を持ち、地域が活性化するために、地域に根ざした教育を大切にするべき。
少子化による生徒数の減少は避けれないと思う。そのことは逆に生徒一人一人に接する機会が多くなると思う。小規模校ならではの目の行き届いた子どもの成長につながるのでは。

通学について

波方小学校の開始時間が早すぎて家から学校まで遠いため、とても大変。今は 7 時 45 分登校なので 7 時前には家を出るため、冬は薄暗い中登校している。せめて 8 時登校にしてもらえたら助かる。
遠いので、バス通学にシフトしてほしい。歩く時間が 30 分ちょっとなので、いやで学校に行きたがらない。
毎日山を 2 つ越えて登下校している。その山もいろんな所が土砂崩れしており登下校が凄く心配。登下校が長時間になる場合はスクールバス等検討してほしい。
登下校時、児童が 1 人で長く歩く距離があり不安。近隣に児童が少ないため、集団登下校も難しい。距離だけでなく、児童数も考慮し、スクールバス運行を検討してほしい。
道を挟んで住所が違うというだけで遠い中学校まで行かなければいけないと聞いた。中学校の校区分けのありかたを考えてほしい。不登校の子供達のこと考えると校区外の選択肢もあっていいと思う。
通学時間が長いのでかわいそう。住む場所によっては差が出てしまう。とにかく学校は、朝が早すぎる。

教育環境について

少なくなっても、一人一人を、大切に見てくれれば、うれしい。
学校の規模は関係なく、子どもが快適に過ごせる場所が重要。中学校の部活動選択の自由度を高め、子どもたちの選択肢を広げてほしい。
少人数、大人数でそれぞれメリット・デメリットがあると思う。中学で部活動が無いので校区外の中学へ行くのは寂しく感じる。生徒数が少ないので多い校区の学校へ行く人がいるのは寂しい。少人数の良さを生かした学校運営をして、発信してもらいたい。

児童数に対して、教師の数が少ないように思う。
児童の数に対して、先生の手が足りていないと思う。
支援学級では個人に合ったサポートをしてほしい（先生によって対応に差がある）。
学級編制を柔軟化し、教員の負担軽減と生徒へのきめ細かい指導を両立させ、より良い教育環境を実現してほしい。
人数が少なすぎるため競争し切磋琢磨する環境がない。部活も少ないため、本人の希望の活動ができない。また、いじめ発生したときの逃げ場がない。
小規模学校に通うことで、人前で代表となって発表することや、人数が少ないからこそその1人が担う学級での役割も多くあり、たくさんの経験をすることができる点では、小規模校も利点はたくさんあると思う。
小規模校なのに波方小学校6年生1クラス43人は多すぎる。先生に目が行き届かず、教育の質が低下している。古い教育制度の見直しが必要。
少人数ではあるが、先生が一人一人に丁寧に向き合ってくれているのを感じる。何かあった時に見てない知らないでは困るし、近年では支援の生徒も多いので、今ぐらいの規模がありがたい。
地元の子供が遠慮することなく、気兼ねすることなく、のびのびと学校生活を送れる環境をつくらせてほしい。
30人以上になると、担任の先生1人では対応出来ない事も多々あるため、サブの先生も検討してほしい。
小規模校が寂しく感じている。それならば他校にはないカリキュラムや特色をもっと出して他校にはない強みのある学校にしてほしい。
競わせる教育をしてほしい。
支援級児童増、通常級の先生1人体制に疑問。複数担任制の導入など先生同士の連携強化と、多様な児童に対応できる体制が必要。教師の働き方や学校のあり方を見直す必要があると感じる。
先生の勤務時間の軽減、教育活動時間の確保にも十分な取り組みを望む。
中学校のクラス人数は現在の40人では多すぎる。机が入れば、子どもが自由に動くスペースがない。授業でも先生の目が届きにくく、負担も大きいのでは。
児童数が少ない学校は先生の人数も少なくするのは止めてほしい。先生の負担が大きいのと、一人一人子どもと向き合う時間を作してほしい。
支援級のクラスについての意見も聞く機会を設けてほしい
1クラスの人数を減らすのがいいと思う。多くても25人とかにしてほしい。
日本の教育は古い考え方に囚われている。置き勉禁止や重いランドセルなど、非効率な慣習も問題だ。協調性より個性を、多数決より多様な意見を尊重する教育へ。子どもたちの幸せこそが重要。
波方小5年生の不適切な言動（死ねと言ったり、中指を立てるなど）に懸念。クラスを2つに分けることで、いじめ防止と規律ある学校環境の整備を。
イジメに対応してほしい。解決しましたと報告すればいいわけではない。しかし何も解決していない。
クラスになじめなくなった子が安心出来る場所があってほしい。

朝倉中学校には県外からスポーツのために来ている生徒がいるが、地元児童との関わりを極力減らし、2分割クラスを実現してもらいたい。スポーツ生徒の都合で学校行事が変更、授業変更になって特別扱いしている。

朝倉中学校ではJFAアカデミー今治の子どもたちとの交流を通して、子どもたちは広がりを持つことができる。しかし、学校の方針で他学年との交流が禁止されているのはなぜなのか疑問。小学校での縦割り交流は何だったのか、なぜダメか理解できない。

文部科学省によって決められている学年の人数制限ではなく、その学校の生徒数などからクラス人数の割合を一定にして、先生の負担が少なくなるよう、また子ども一人一人に合った教育指導が行われることを重視してもらえたらありがたい。

部活動について

児童数が少なくて中学校の部活の選択肢が少ない。

部活動の地域移行に関して、なかなか話が進んでいないのが残念だ。その体制が整えば、地元の学校に通う子も今より増えると思う。今年入学するまでに何かしら話がまとまってほしい。

児童クラブについて

亀岡小学校区に児童クラブがないことに疑問を感じる。共働き家庭では放課後の子どもの預かり先は不可欠。全学校への児童クラブ設置や部活動移行のサポート拡充を求める。

亀岡小学校区に児童クラブを。共働き家庭が増加し、夏休み中の子どもの預かり場所が不足。児童館の休館日もあり、低学年の子どもたちの安全確保が急務。

アンケートについて

大人の都合（高齢者）ではなく、子どもを育てている世代の声をきちんと聞いてほしい。今回のアンケートの結果もきちんと開示してほしい。

このアンケートは親の意見と子どもの意見を分けて聞いたほうがよいのではないかなと思う。

小中学生の保護者のご意見（旧町村島しょ部）

統廃合の進め方について

大島中学校の合併説明はメリットばかりで、デメリットの説明が不足していた。合併後の現状は説明と異なり、生徒や保護者の負担が大きい。小学校の合併協議では、詳細な説明と配慮を求める。

適正配置は大切だが、地域の実情を考慮した柔軟な対応が必要。特に島しょ部では、統合された側の生徒や家庭への影響や負担が大きいので慎重に対応してほしい。

学校の統合は避けられないが、通学の便を確保し、過疎化を加速させないよう慎重な計画が必要。

特に遠隔地への配慮が不可欠。
子どもの人数減少に伴う合併は仕方ないと思うが、さまざまな意見を聞きながら慎重に考えてほしい。
島の学校は、1 島に 1 校は必要。緊急時に学校に遠隔地から駆けつけることが困難となり、不安が増大する。
もし統合などが行われるようであれば、事前に計画の案内や説明を早めにしてほしい。
大規模・小規模校は一概にどちらが良いとは言えず、学校、教師、保護者、地域が協力して最適な環境を築く努力をするだけ。
今の中学生の意見も聞いてみた方が良いと思う。
学校数の減少は仕方ないが、今治から島しょ部への流入も視野に入るような島しょ部に魅力的な拠点を設けてほしい。義務教育の交通費を補助すべき。統合を視野に制服は撤廃を。
島単位で小中学校が必要。大規模校になじめない子どもや、いじめなどで学校に行けない子が、別の学校へ通えるようにすれば、島に新たな施設を作る必要はない。

複式学級について

複式学級は、高学年が低学年を教え合うことで、双方の学びが深まるので賛成。しかし、少人数制（1 学年 10 人程度）は長期間（6 年間）なので望ましくない。
来年度確定している複式学級になることによって、学力が低下しないか心配である。
教職員の数もあるだろうが、少人数でも複式クラスにせず学年ごとに編成してもらいたい。
複式学級にはあまり賛成しない。年齢差による学習内容の違いや、教員の負担増が懸念される。少人数校では教員の負担がさらに増え、生徒への指導や離職につながる可能性がある。保護者や生徒の意識も変化しており、教員の負担は大きい。

統合（賛成）について

学校の統合は、生徒数増加による行事の活性化や部活動の充実が期待できるが、島しょ部では通学時間や費用など課題も多い。3 島統合は魅力的だが、現実的な解決策があるのかが疑問。
規模が小さいので合併するなどして学校の生徒数を増やしてほしい。色んな人がいるともめる事もあるが、またもめた場合の逃げ道も確保しやすいと思う。
大三島内の小中学校の統合を強く要望。特に、小中一貫校であれば多子世帯にとっては兄弟姉妹が同じ学校に通えるメリットが大きい。複式学級による教育の質低下や少人数による修学旅行の負担増、運動会開催の難しさなどが問題であり、早急な合併と小中一貫教育の導入を求める。
統合はやむを得ないと思う。

統合（反対）について

少子化でも学校は地域のため必要。将来、高齢福祉以外に使える税金が増えれば学校への投資が可能。次の世代のために学校を残しておく必要がある。
まだ小学校は合併しなくてもいい。
バスで通わなければならない距離は適正とは言えない。
現在の小学校はバスで 15 分と通学に便利。しかし、小中一貫になると通学時間が延び、子どもの負担が増えることが心配。
少子高齢化で学校が減るのは避けたい。未来のために、子育てしやすい学校を残し、地域を活性化させよう。子どもがいなくなれば全て終わる。

通学について

島しょ部の生徒は、自転車での帰宅は暗く危険で、イノシシも出没。担任の持ち上がりはデメリットが多く、部活の交通費も高額。これらの問題を改善してほしい。
登校に徒歩 20 分以上かかる場合は、バス通学にしてもらえると助かる。
伯方町は小中学校が統合され、通学距離が遠い生徒への配慮や保護者の意見が反映されている。高校生になると高額な通学費が負担。島への交通費補助を検討し、経済的理由で進学を諦めることのない学習機会の平等を。
中学生の通学路が遠距離で危険。特に冬場の薄暗く高低差のある道は心配。部活などでバス利用が難しくなり、自転車通学が必須となる状況で、夏の暑さや倒れた際の発見の遅れが懸念される。電動アシスト自転車の利用を認め、購入補助金制度の導入を要望。
小学生が重いランドセルを背負って歩くのは危険。交通量が多い場所での転倒などが心配。幼稚園のように先生が同行するバス通学も検討すべき。
自転車通学だが、バス利用も可能にしてもらいたい。雨の日、親の送迎が大変と感じる時がある。

校区外通学について

県境地域において、県外の小中学校への対応を柔軟に対応していただきたい。

教育環境について

小 5・6 年生のクラスが 1 つに統合され、生徒数が多すぎる。個別の指導が行き届かず、学習能力に応じたクラス分けを検討すべき。
子どもの帰宅時間が遅い（17 時頃）のが心配。7 時 50 分開始と朝が早いので、15 時頃には帰宅できるよう希望。土曜授業もやむを得ないので、早めの終業を希望する。

教科書にとらわれず、生活全体が学びの場。地域特性を生かし、学校間・地域との交流を深め、柔軟な学びの場を創出してほしい。指導者と学習者が共に学び合い、成長し合うことで、子どもたちの理解力、考察力、発見力を高めたい。
伯方小中学校は、少人数で9年間同じクラスのため、不仲になると長く苦しい。2クラス化による環境の変化が必要。また、中学生の通学路の危険性、特に重いカバンによるけがの多発が問題。学校側は対策に消極的で、子どもの安全が心配。
先生がゆとりをもって子どもに対峙できる環境整備を望む。
少人数制の小学校は、アットホームな一方で、友達関係の偏りや行事の制限など課題も。従来の枠にとらわれない、より良い学びの場となるような工夫や発展を期待したい。
7人の少人数クラスは寂しい。島内に（進学を希望する）高校がないため、高校生の市内へのバス料金無料化を要望。
支援員が不足しており、支援級だけでなく、グレーゾーンの児童生徒も十分な支援を受けられていない。支援体制の強化が求められる。
生徒数が多くても、いじめ問題が発生している。笑顔の裏に何が隠れているか、もっと注意深く見守る必要がある。何かが起こってからでは遅い。
子どもたちがみんな安心して、楽しく学校生活を送れることが一番大切だと思う。
インクルーシブ教育を推進するため、通常学級に支援員を増員し、担任の負担を軽減してほしい。特性のある子どもへの授業準備に時間を割けるよう、保護者としても協力したい。例えば、宿題の丸つけなど。
先生は親戚の子を特別扱いしているという声を耳にする。教師は公平であるべきであり、親族関係にある教師と生徒は避けるべき。正職員・非常勤に関わらず、全ての教師が公平な立場で子供たちと接するべき。

部活動について

島の子の部活選択肢を増やすため、周辺校との連携を強化してもよいのでは。週2～3回のバス移動など、サポート体制を整え、多様な部活に参加できる環境を整備すべき。
中学校に文化部を作してほしい。

アンケートについて

アンケート結果を校区ごとに分析し、公表してほしい。

就学前乳幼児の保護者、妊娠中のご家庭のご意見

統廃合の進め方について

統合による通学距離の負担が増える者への支援を希望する。少人数ならではの教育環境（最新機材の導入や試験的な指導方法など）の充実を期待する。
--

児童数減少による学校行事の縮小を避けるため、クラブ活動の選択肢を維持できる規模の学校配置と、校区外の通学を認める柔軟な対応を求める。
統廃合するなら、かなり早い段階で知らせてほしい。
子どもの人数が少なくなり学校の合併も仕方ないことなのだと思うけど、可能な限り今のままで存続してほしい。
統合する場合は、通学時間、距離が長くなり過ぎないように。自転車通学の緩和やスクールバスの導入を検討してほしい。
少子化の現状を踏まえ、子どもの幸せを第一に考え、学校規模や配置について、多様な意見を尊重しながら、妥協点を見つけることが重要。
桜井小学校入学予定。少人数のため学校統合が心配。通学路が危険で、特に低学年の子どもの安全が危惧される。通学時間や距離、環境も考慮した上で、学校統合の検討をしてほしい。
もし統合をしてその学校が遠くになった場合、隣校区の方が近い場合はそちらに通学できるようにしてほしい。
「適正配置」という専門用語が分かりにくく、アンケート項目も恣意的で、市民の意見が十分に反映されるか疑問。教員増とスクールバス充実が最優先であり、統廃合はあくまで手段。充実したスクールバス通学には補助金が必要。統廃合による予算の増減を明確に示すべき。説明会も市民に分かりやすい形で実施すべき。
統廃合を決める場合は早めにアナウンスしてほしい。通学している期間に学校の場所が急に変わることは望ましくない。
小学校区が広すぎると、低学年が歩いて登校するには心配になる距離になる場合がある。広すぎる校区は対策を考えてほしい。
小学校の途中での統合などが行われる場合、児童・保護者ともに事前の計画や説明を早めに行ってほしい。
学校適正配置は理解できるが、児童の通学時間が長くなりすぎる点を懸念する。特に朝は暗く寒く、登校が苦痛となるのでは。登校の開始時刻も早すぎる。小学生の健康や安全のため、通学時間や集団登校の時間を再検討すべき。
学校統廃合では、地域住民や保護者など全ての関係者がメリットを感じられるよう配慮が必要。また教員負担を軽減し、教育の質向上につなげることも検討すべき。
少人数のメリットを活かし、地域や個性を生かした豊かな学校づくりを。子どもたちの意見を聞き、多様な学校選択を可能にし、遠隔地にはタクシー配車など工夫を。数や効率より、子どもたちの豊かな学校生活を第一に。
学校は地域活性化の場でもあるが、第一義は児童生徒の育成。地域の寂しさを理由に学校を残すのではなく、子どもたちにとって最適な教育環境をどのように提供できるかという視点が重要。社会のフルメンバーを育てることを最優先に議論すべき。
多い学校も少ない学校も、自信と誇りを持ってメリットを子どもに伝え、活かしたらいいと思う。
統合され通学距離が長くなるならバス等の配置は必須。
既存の建物を利用する統廃合だけではなく、面倒がらず今治市としてどこにあれば良いのかを最優先に考えて新たに配置することも必要。

少子化が進んでいるとはいえ、学校の統廃合で子どもたちの負担が増えるのは避けるべき。むしろ生徒数が増えるよう、今治市の人口増加策に力を入れてほしい。
少人数クラスでは、いじめなどの問題が発生した場合、子どもが逃げ場を失う可能性がある。一方、学校合併は通学距離が延びるという課題も。子どもへの支援体制強化のため、両者のバランスを考慮した対策が必要。
小学生になってすぐに徒歩で 1 時間ほどかかる道のりを登校するのは危なく、親としても心配。学校を増やすことや、学区の分け方を見直すなどしてほしい。
私が小中高の通学距離が長く苦労した経験（小学校 40 分、中学校 20 分、高校 35 分）から、学校統合は登校距離を考慮すべき。人数減少でもメリットはあるため、廃校ではなく、通学しやすい環境を整えてほしい。
統廃合により通学距離が長くなることで、事故・犯罪に巻き込まれるリスクが高くなるのが心配。
小学校の校区選択制は地域格差や学力格差を生む恐れがあるため、反対。特に、島しょ部と市内の学校統合は、島の人口減少につながる可能性があり、別々に検討すべき。
1 学年に最低 2 クラス以上は欲しい。
1 クラスしかない人間関係が完結してしまうと思うので、何クラスかあるようにしてコミュニケーションを取るようにするのが望ましい
1 クラス 20～25 人が理想。これ以上だと子どもへの目が行き届かず、教育の質が低下する。少子化で学校統廃合は避けられないが、子どもへの教育を充実させるため、教員確保が急務。
人数が多すぎるのも問題ありだと思うが、少なすぎるのもいじめや何かあった時に逃げ場がないと思うので生徒の分散をして各校同じ人数位になるのが理想。

統合（賛成）について

地域住民は学校の存続を望むが、子どもたちのことを第一に考え、小中一貫校は学年の少なさや発達段階の違いによる問題が懸念される。周りの地域の小中学校との統合で、あるべきクラス人数で学校を運営してほしい。
上浦小学校と大三島小学校は統合してほしい。
朝倉小学校の少人数クラスのデメリットを懸念し、富田校区への移住を検討。学校統合を望んでおり、子育て世帯の意見をもっと重視してほしい。少人数クラスによる人間関係のトラブルや、朝倉中学校の部活動の偏りなど、子どもたちの成長に悪影響だと考え、多様な環境で育ってほしいと願う。JFA アカデミー今治との間に壁がある現状を改善し、地元の子どもたちが楽しく学校生活を送れるよう、統合による学校規模の拡大を強く求める。
少子化が進み、小規模校が増加している現状では小中学校の合併も必要。既存校の合併ではなく、新設校が魅力的。多様な価値観やアイデンティティを育む環境を望む。
波方小学校は 1 学年 1 クラスという状況が続いているが、波止浜小学校との統合は難しいのか？クラス替えが無い状況で 6 年間過ごす事に不安を感じている。
子どもの人数が少ないと刺激も少なく、経験できることが減り、人間性が育まれないので合併出来るならしてほしい。朝倉のようにバス通学も視野に入れてほしい。

波止浜小学校と波方小学校は、統合してクラス数を増やしてほしい。波方は広範囲なので、スクールバスなどの対応が出来れば良いと思う。
児童数が少ない学校に子どもを入学させたくないが、過疎地へ転居する予定。少ない児童数の学校は統合、合併をしてほしい。
児童数の減少により学校統廃合は避けられない。反対意見は予想されるが、早期に統廃合計画を進めるべき。通学距離の延伸など、生徒への影響を最小限に抑える対策が必要。

統合（反対）について

地域柄や生徒数を考えて今の場所に家を建てたので、小学校は今のままの校区の範囲を希望する。
小規模校なりの良さがあるので、統合は慎重に。教員確保のため、国や県に財政支援を求める。
学校の統廃合によって 1 校当たりの生徒数が多くなることで先生が目が行き届かずに生徒間の問題行動が見過ごされないか、学力に影響が出ないか心配。
学校の雰囲気や学校までの距離を考えて現在の場所に土地購入したので、できれば校区の割り方などは変更してほしくない。
学校数が減ると、通学距離が延び、親の負担が増加し、経済状況が悪化する。親の経済状況は子どもの将来に影響するため、学校数を減らすことは望ましくない。
子どもの数は減っているが地域の学校は地域に残した方が良いと考える。そのため、子どもの数や学級数は少なくともよいのではないかと考える。

通学について

中学の自転車通学を、距離ではなく全員に認めてほしい。
低学年児童の通学路が危険。特に夏場は熱中症の恐れも。バス通学など、安全な通学手段を。
通学路が遠い子は、事件・事故の危険性が高い。送迎許可など、柔軟な対応を望む。
小学生なら徒歩 30 分圏内が望ましい。あまり遠くなるようならスクールバス等検討してほしい。
今治に転居してきたが、今治の川、溝などの横のガードレールがないのが安全面でとても気になる。改善できる場所は改善してほしい。
猛暑の中での登校は危険で、スクールバスの導入や街灯の設置、不審者対策など子どもを守る防犯対策を希望する。
小学校まで徒歩 1 時間と遠く、通学路の危険性がある。他の市ではスクールバスが出ているため、今治市も同様にスクールバスの運行を検討すべき。
小学 1 年生の通学距離が心配。共働きのため、登下校の見守りが難しく、子ども見守り隊の増強を要望。安全な通学路を確保し、子どもたちが安心して学校に通えるようにしてほしい。
スクールバスがあれば利用したい。
通学を 15 分未満にすることは難しいが、登下校時間は短縮したい。近隣の子でも自転車通学を許可し、中学生の通学時間を短くするなどの対策を検討してほしい。

校区外通学について

バイパスを超えることになるので清水小学校に通わせたい。中学校の校区で小学校の選択をできるようにしてほしい。
小学校は理由によっては校区外通学可だが、中学校は難しいと聞いた。中学校の条件も緩和してほしい。
鳥生地区在住だが、通学路の危険性から立花小学校への入学を希望。子どもの安全と負担を考慮して、学校選択をさせてほしい。
校区関係なく希望の学校に自由に行けるといい。
校区割を柔軟にし、自由度を上げてほしい。
決められた学区より隣の学区が近い場合の自由選択制度を要望。
近くて 11 分で行ける距離にあるのに通学地域の規制のため 23 分も時間がかかる小学校にいかなくてはいけいないのは不思議である。
隣の学校区も選択可能にしてほしい。
近くに学校があるのに、地域で分けられて遠い方の学校に行かなければならない子どもがいるので、その地域は選択出来るようにする考えもあればいい。
子どもの特性や親の都合で同程度の距離で校区制の学校と違う学校を希望した場合に、柔軟に対応してほしい。明らかに無理な場合を除き、希望の学校へのスムーズな入学を認めてほしい。
馬越町は、常盤小学校の方が距離的にも、交通の面も安全だと思う。
自宅は小学校区の境にあり、徒歩 30 分の学校になる。周辺に子どもがおらず、幼い子どもを長時間一人で歩かせるのは安全面で不安。そのため、徒歩 10 分の隣の小学校への通学を希望する。
地域によっては、こっちの学校の方が近い というようなことがあるが、決められた学校に行かなくてはならないのか。
隣の校区の小学校も選択できるようにしてほしい。
境界線付近の家は学校を選ぶ事が出来るようにしてほしい。
学校を選ぶ自由度が広がれば良い。
学校統合だけでなく、学童保育の運用も考慮すべき。自然豊かな少人数校を残し、校区制を一部撤廃し、保護者と子どもが自由に学校を選べるようにする選択肢も検討してほしい。

学校施設について

洋式トイレを完備してほしい。
鳥生小学校前が 2 年続けて浸水している。何か対策を要望する。
日高小学校の運動場は狭いので広くしてほしい。校舎が古いので新しくしてほしい。耐震性が心配。
市内の小中学校の老朽化が深刻で、南海トラフへの不安も加わり、子どもたちを安心して通わせられない。他の市では建て替えが進んでいる中、今治市も教育環境改善のため、古い施設の建て替えを早急に進めるべき。

学校での転落事故が心配。先生方には、勉強だけでなく、子どもたちの安全にも十分配慮してほしい。安心して子どもを預けられる学校環境を求める。
現代の子どもたちが快適に過ごせる、きれいで機能的な施設にしてほしい。現在の施設は古すぎる。

教育環境について

全ての小学校に制服が必要だと思う。制服があれば、登下校中のトラブル時にどの学校の生徒かすぐ分かり、対応がスムーズになる。
学級数が多くても、担任や副担任がいるので、子ども一人一人としっかり向き合ってもらいたい。
古くさい校則や決まり、ルール等で個性を育む機会だけは絶対に失ってはいけない。時代に合わせた子どもの教育環境の整備が急務。事実、自分の意思で判断できない子どもや少年が多すぎるように思う。
教育環境をよくするために転居する。
先生の負担軽減で専門授業の出前授業（地域の企業）。
子どもの人数に応じた学級数や教員の配置を希望する。安心安全な環境整備をお願いする。
発達障害などの特性のある子どもへの適正な教育のため、教員手配などを充実させてほしい。
1 学級の人数をもっと減らして、全員に目が行き届くようにしてほしい。
一人一人の個性を大切にやってほしい。学級数より、学級の規模を適切にすることを重視してほしい。
少人数クラスで教育の質が心配。友達関係のトラブルや行事の盛り上がりも不安。
様々な特性の子どもがいる中で、それに対する適切な援助ができるように十分な数の教員を配置してほしい。
子どもがのびのびと個性を伸ばせる環境がたくさんあれば良いと思う。
少人数学級は望むが、教員負担増は避けたい。教員数を増やし、現場を支援してほしい。
学童の充実。
いじめ対策として、クラス替え時にアンケートを希望。また、安全面にも配慮して通学が遠い生徒へのマイクロバス運行を提案。
学校間で学力差、特にいじめに対する指導差があるのは改善してほしい。
小学校の場合、クラス数うんぬんよりも、1 クラスの人数を 25 人程度にしてほしい。
支援学級・通級の適切な指導が受けられるよう配置してほしい。
幼稚園や学校の教員不足が深刻で、教員の負担が大きい。教員の待遇改善が急務であり、教員が心に余裕を持って子どもと向き合える環境を整えるべき。教員不足は子どもたちの教育にも悪影響を及ぼす。
教師の質向上。
小学一年生は環境の変化が大きく、親も子も戸惑う。そのため、クラスの人数を少なくし、先生が一人一人に目が行き届くような少人数クラスを希望する。
地域の人に偏りのある集団がないこと。
1 クラス 20 人を希望。35 人では先生の負担が大きく、個別対応や保護者との信頼関係が難しい

ため。
先生はとてもよくしてくれているのは重々承知だが、忙しさはすごく伝わる。保護者として教員の処遇改善を求める。
学習アシスタントやサポートの人員を増やし、手厚いサポートの中、安心して学校生活を送れるようにしてほしい。
頭悪い親が多すぎる。子供の染髪を許すな。
少人数クラスの維持、不登校児童のためのクラス設置、いじめ加害児童の対応、校区の柔軟な決定を希望する。
先生の目が行き届くようにするため、クラス数よりはクラスの生徒数を 20 人程度、多くても 30 人にしてほしい。
難しいと思うが、教員の給料と仕事内容の負担を減らして教員の数を増やすべき。教育以前の問題だと思う。子どもの数は正直先生が面倒を見れる数でいい。
個性を尊重し、多数決に頼らない環境が大切。伝統や習わしも見直し、子どもたちのためという目線で検討してほしい。
1 クラスですずっと過ごすのは不安で、クラス替えが必要。少子化による児童数減少が心配。楽しい学校生活の環境づくりを期待している。
生徒が取り残されない教育環境を希望。1 クラス 30 名で担任と副担任でもぎりぎりだと思う。
地域に学校があるのは良いが、少子化で学校間の格差が拡大。スポーツが強い大規模校が人気だが、少人数制のきめ細かな指導も選択肢としてほしい。子ども一人一人の個性や適性に合わせて、学校を選べるような教育環境が望ましい。
先生が生徒に差別なく接してほしい。
ランドセルは高いのがあれば安いのがある。近見小学校のランリュックなんか手頃でいいし、制服もあればいいと思う。
来年度の波方小学校の入学人数が少ないと聞き少し心配している。
いじめがあった場合、どのように配置しているのか知りたい。被害者ではなく加害者に問題があり、被害者が休まなければならない状況はやめてほしい。
支援級児童への偏見や差別をなくし、理解と協力を得ることで、児童が安心して学校に通えるようにしてほしい。保護者や教職員の理解と協力が不可欠であり、楽しい学校生活を送れるよう配慮を求める。
食育に力をいれているとうれしく思う。安全でおいしいごはんが食べれたらいいな。
支援級の先生への負担軽減のため、補助の先生や支援員配置を希望。教員不足により、子どもへの対応や連携がうまくいかず、不登校につながるケースも。他市の「チーム担任制」のように、人手が足りないことが理由で子どもたちの教育が阻害されないよう願う。
少人数のクラスでないと、きめ細かな指導は難しい。教員を増やし、学級数を増やすべき。教育に力を入れないと、子どもの豊かな心は育たない。市民が真ん中と言うなら、子どもたちの教育環境を改善すべき。
教諭の適正配置を優先してほしい。

各小中学校に特別支援級を設置し、子どもたちが住む地域で適切な教育を受けられる環境を整備してほしい。分けるのではなく、共生することで差別や偏見のない、優しい子どもたちが育つ今治地域を目指したい。
西中学校の生徒数の増加が気になる。
適正配置は自由で良い。ただ、もっと時代に合わせた先生の適応能力は必要だと思う。情報社会なのだから学校や地域全体で講習会や子どもたちの脳や体の発達の勉強などしたほうが良いのではと思う。
立花小学校を制服にしてほしい。
クラスの人数を減らしてほしい。MAX40人は多いと感じる。
学級数は問わないが、クラス人数を減らして先生の負担を減らしてほしい。大人数を一人で受け持つのは大変
特別支援級という呼び名等を変え、もっと親しみがもてるもの、区別のないものに変える
先生方が子どもたちと向き合う時間が取れるような学校規模、教員配置、クラス分けが行われるとより良い教育環境になると思う。
クラス数が多いのは仕方ないと思うが、1クラス当たりの人数が今のままでは、先生の負担が多すぎると思う。先生に心の余裕を持ってほしい。先生が忙しすぎるのではないかな。

部活動について

菊間中学校の部活動が少ないのが残念。統合で改善できるのか。多ければ良いわけではないが。

児童クラブについて

共働きのため、児童クラブの充実を要望する。
安心安全な教育の場を提供してほしい。

PTAについて

PTA など旗当番や行事の親の負担をなくしてほしい。
PTA はいつまで存続するのか。親の負担も考慮してほしい。我が子の通学路でない場所での旗振りが必要なのか考えてもらいたい。

アンケート等について

学校適正配置説明会後の状況を知りたい。説明会効果や今後の見通しなど。アンケート自体は、個人を特定する質問が多いと感じた。
--

アンケート項目にある健全な成長とは具体的にどのようなものか、もっと詳しく教えてほしい。また、古い田舎の風習（茶髪、ピアスはダメ等）を切り捨て、現代に合わせた教育をしてほしい。
適正規模、適正配置の具体案がなければイメージがわからない。

教職員のご意見

統廃合の進め方について

学校の適正規模とは何か。少子化が進み、合併した学校の利点が失われている現状では、児童生徒数増のための合併は地域や保護者の理解を得にくいと思う。
地域住民の声を十分反映した取組が望ましい。
小規模校、少人数教育も特色の一つ。児童生徒数や学級数でなく、校区の広さや通学距離・方法、地域の特色等多面的に何が適正かを十分に検討してほしい。
予算優先ではなく、その地域の児童生徒や地域の方々にとってベストな選択をしてほしい。
学校配置は生徒数だけでなく、教育効果や地域活性化を考慮すべき。地域に学校を残し、住民と共に見守り育てる環境づくりが重要。過疎化防止にもつながり、子どもたちの学びを深める。
学校は地域の子どものためにあるのだから、児童や保護者の意見を尊重してほしい。
適正な規模と言われると難しいが、私は1学級に25～30人、学級数は3～4クラスが一番学級経営、学年経営、学校経営をしやすい人数だと思う。
統廃合は地域性が大きく作用するため、一律に言えない。特に校区が広がれば、小学生の登下校の安全確保が大きな課題となる。
少子化による学校再編は急務と承知しているが、地域の実情や求められる教育は様々。一律のアンケートではなく、地域の声を丁寧に聞き、多様な意見を尊重した上で、学校配置を決めるべき。
学校再編は地域の実情や住民の意見を尊重し、多様な学校を設けるべき。学びの多様化や授業時数特例校、小中一貫校や夜間中学校など、多様で魅力的な学校を増やすことで、子育てしやすい町となり、人口増加につながる。
保護者や地域の方々の思いをしっかりと受け止め、今後の在り方について考えていく必要がある。
島しょ部の学校統廃合は、住民や保護者、児童の意見を十分に聞き、納得のいく形で進めるべき。子どもたちにとってプラスになるようにしてほしい。
これまでの校区は形が歪で、子どもたちの幸せのために見直しが必要。それぞれの学校を中心に、均等な校区に再編することで、より良い教育環境が実現できる。
小学校の再編では、拠点校の決定や通学路の安全確保が重要。合わせて中学校区の見直しも必要で、大幅な改正がないと、保護者の不安につながる。
乃万小学校、西中校区の人数が多すぎる。校区の見直しを行い、各学校の人数を均等化することが望ましい。
統合や閉校は、生徒の転校や教職員の異動など、多くの問題を引き起こす。十分な時間をかけて、関係者が納得できる計画を立て、円滑な移行を図るべき。

合併により、遠距離通学の子どもが増えることが考えられる。バス通学の支障が出るのが心配である。
小規模校の統廃合は、地域住民の思いや近隣地域との関係性を考慮し、十分な議論が必要。安易な判断は、将来の学校運営に悪影響を与える可能性がある。
教職員以外にも地域の方のたくさんの意見を取り入れたらいいと思う。
多様化している昨今、落ち着きのない生活になりがちなので、学校規模が大きいのは様々な問題に対応できない。
生徒指導上、配慮を要する生徒や家庭の多い地区同士の統合は避けていただきたいのが、現場としての意見。
地域に学校があることは重要だが、小規模校は固定観念を生みやすい。中学校進学時には複数校合同にするのが良いと思う。
少人数教育（1 学級 20 人未満）は、児童・教員の負担軽減につながり、教員不足解消にもつながる。時代の変化に合わせて、学級規模を適正化すべき。
支援が必要な子どもが増えているため、1 クラス当たりの人数が30 名以下になれば、より細やかな指導ができる。
教員が学習指導、学級経営に専念できるように、校務分掌を分類整理して、職員を適正配置してほしい。
課題は人員不足にあると思う。例えば通学距離の問題は、スクールバスの導入で解決する方法もあると思う。従来通りではない、新しい地域や行政との関係を作るべきではないか。
配慮を要する生徒の急増に合わせ、割り切った教員も増加。一部の教員に過度の負担がかかっている。学級規模の縮小を早急に検討してほしい。
20 人ほどで3 クラス以上だと良い。
教員は、学校規模に関わらず、配置された場所で最大限に力を尽くすべき。しかし、現状は教員不足が深刻で、教員の負担が大きい。学校規模に応じた適切な教員配置が求められる。
小学校低学年は20 人程度、高学年は30 人弱が理想。学年によって最適な学級人数があると考えられる。
多様な生徒、保護者が増え、40 人学級では生徒への目が行き届かないし、教員の負担も大きい。35 人学級の早期実現を望む。
学級規模が大きいと細かな指導が難しく、小規模校は教員の負担が大きい。特に、教員数が少ないと校務分掌や部活動の運営負担（部活動顧問の単独体制）が過大となる。
ここ数年、教員不足は深刻化しており教員の負担が増大している。増え続ける校務に多様な児童への個別対応も求められる中、現場を支える教職員が減り続けているのは異常である。多くの教職員が疲弊していることを理解し、早急に対応してほしい。教職員数確保のため学校適正規模の検討は必要かと思うが、教職員が健康に働けるための環境整備をお願いしたい。
学級数が少なくても、生徒数が上限（40 人）の学級がある。35 人学級等にして、学級数を増やした方が、生徒教員とも負担軽減になると思われる。
若手が多いと、対応力の弱さを感じる。生徒指導や学習指導の質を確保するため、若手とベテランが混在し、互いをサポートできるような教員配置が必要。今治市の学校教育の存続のため、統廃合

してでも教員配置の改善を求める。
適正な規模にするために、通学時間があまりに長くなるのは大変である（児童、保護者とも）。

複式学級について

複式学級の解消を望む。
複式学級では、教員の負担も大きく児童への支援も不十分になってしまう。少ない人数でも各学年 1 学級にできるように配置していただきたい。
複式学級や単級の学年は児童生徒の健全育成上解消するべきだと考える。
小規模校、中規模校、それぞれ良さがある。しかし、複式学級になる場合は、通学距離を考慮しつつ、他校との合併を検討すべき。

統合（賛成）について

適正規模・適正配置の見直しを継続して行い、入学者数が減ってきている地域で対話を大切にしながらこの課題についてどんどん進めてほしい。
通学に関する不安が大きいが、そこをクリアさえすれば、学校の統合も児童にとって良い面がある。
暖冷房など快適に学習できる環境づくりのため施設維持費を潤沢に配分するためにも、統廃合は進めるべき。
小規模の学校が増えてきている。合併して教員の負担軽減をしてほしい。
15名の複式学級で「わたり」の授業を経験した立場からの意見だが、授業準備などとにかく時間が足りない。教師の資質能力に依存しすぎるのは、教員の若年化や業務負担軽減の観点から問題があり、児童の不利益にもつながる恐れがある。可能な限り解消できるような教員配置が必要である。そのために学校配置の適正化は計画的に進める必要がある。
教員不足が深刻で、体調不良でも休みにくい状況。支援が必要な学級に手伝いに行けない。学校数を減らしてでも 1 校当たりの教員数を増やしてほしい。

統合（反対）について

地域の特性があるので、安易に統合すべきでないと思う。
学校数が増えると通学距離の観点から大きな負担がかかること、学校がなくなった地域は将来の人口増が見込めなくなることから、学校が減ることは望ましくないと考える。
小規模校には独自の良さがあり、地域住民の理解と協力がある場合もある。児童数の減少を理由に一律に統合を進めるのではなく、地域の特性や児童の状況を考慮すべき。

通学について

島しょ部の中学校統合により、通学時間が長くなり、自転車通学が困難な地域も。スクールバスの運行に制限があり、学校側の要望に応えられないケースも発生しており（午前下校の際など）、学校

運営に支障が出ている。
遠距離通学や人通りが少ない寂しい通学路等の改善策を示していただきたい。地域や行政による支援が必要だと思う。
小学校は徒歩 15 分以内(1km 圏内)が望ましい。都市部では、校内への保護者の自転車の乗り入れすら禁止されており、全員が徒歩で通学している。地域の公共交通機関を守るためにも、職員もマイカー通勤を原則禁止とし、JR やバスでの通勤を促すべきだと思う。

教育環境について

菊間など少なくなりつつある学校等の統合は大変。また人員不足で誰か欠けると現場が回らない状況にある。
生徒数に対する教員数の変更が各自治体単位で可能であれば、実情に応じた配置ができるのではないかとされる。
とにかく人手不足。
1 学級当たりの人数の見直し。より多くの教員、スタッフの配置。
一学級 30 人以上の多人数クラスでは、子ども一人一人に目が行き届かず、個別最適な学びが困難。合理的配慮の増加により教師の負担が過大となり、教員不足につながる。子どもたちの成長には、より多くの大人の支援が必要だと考えている。
教室に入りにくい子どもが増える中、教員の負担軽減のため、全ての学校に専任のサポートルーム職員を配置すべき。
教職員の数が少なく、仕事量が多くツライ。
規模に見合った適正な職員数を配置すること。多様化する問題に対応するための人員の確保。
少人数クラスでも全教科を免許を持つ教員が担当し、免許外教員の負担を軽減すべき。教科によっては複数校勤務も検討すべき。
その学校の規模にあった教員の配置を望む。
仕事量と教員人数が賄えていない。改善していただけると、仕事のやる気につながる。
教員の数がもう少し増えると子どもたちへの対応がゆとりを持ってできると思う。
全ての学校にスクールサポートスタッフ、支援員を配置して教員の負担を減らす。小規模校は、大規模校・中規模校に比べて教員の負担が大きい。
生徒の人数に対して教員数が不足しているため、1 クラスの人数を減らしてクラス数を増やすといった方法が取れない現状がある。
教職員の講師等の人材確保や、適正な支援員等の配置をしていただきたい。
不登校児童への対応教員、給食費や集金などの事務的处理や催促をする職員が配置されることを望む。
中学校に比べて、手のかかる子どもたちが多い小学校に人員配置が少ない。小学校は、いつも職員室に誰もいない。電話番にも困る時がある。
学校間で教育の機会や体験活動に差が出ないように、教職員数の増加を望む。

現代社会では子どもたちの多様化が進み、大規模な学級での指導は困難。少人数化することで、一人一人に目が届き、より効果的な指導が可能になると考えられる。
教員の事務作業負担を減らし、子どもへの指導に集中できる環境を整えるために、事務職など、教員以外の職員を増やす必要がある。
授業妨害をする児童がおり落ち着かないクラスもあるので、大人の数や学習スペースを増やしてほしい。
以前に比べて、特別な支援を要する児童、生徒が増えていると感じる。担任の負担も同じく増えている。人員の確保、1学級の児童数削減を実現してほしい。
1クラスの児童の人数を減らしてほしい。教員の数を増やしてほしい。
職員数の増員と確保をお願いしたい。
育休の代わりがこない現状を変えるためには、仕事量を減らすしかないと思う。地域や保護者から求められていることを断る必要もあると思う。
人間関係づくりが苦手な生徒にとっては、クラス替えができるクラス数を確保することが大切だと思う。
中学校の部活動の改革は進んでいるが、小学校における課外活動についても考えてほしい。時間外労働につながっている。
学習支援や特別な支援を要する児童の支援ができる職員の配置を増やすことで、子どもたち一人一人へ目を配ることができると思う。
免許外の解消や教員の適正数の確保をしないと、教員の余裕の無さが生徒に悪い影響を与えている。
支援員などサポートに入れる教師が複数人いてくださると助かる。
副担任がいれば防げることは多い。
教員不足で、児童の様々な問題に対応できていない。教員不足が現場の大変さを増幅させている。
小規模校は教員の負担が大きい。教科によっては授業数も多く、特に時短勤務の教員が多いと負担が増加する。
もう少し少人数のクラスがよいと思う。教員数が仕事に対して全く足りていない。
保護者の多様化や、一斉授業だけでは学力保障が難しくなっている。担任の負担軽減のため、補助者を増やすべき。若手教員が安心して働ける環境整備が必要。
教員数が足りていない。
必要最低限度の人数でさえ賄えていない現状を早く解決してほしい。現場の疲弊具合を理解してほしい。
休職や育休、年休のことまで考慮した教員の配置が必要だと思う。何校か赴任したが、どの学校もカツカツで余裕がない。勤務時間内に仕事が終わることはない。
小中規模校は教職員定数が少なく、配慮を要する生徒対応や校務分掌の重複で教職員一人当たりの負担が大きいので、可能な限り市会計年度職員を配置して、教員の負担を軽減してほしい。
教員が提出業務に追われ、子どもたちにかかる時間が減っている。ペーパーレス化など、業務の効率化が必要。事務職員のサービス残業も問題であり、教職員全体の負担軽減が求められる。
育休、産休、休職を見越した十分な教員数を確保してもらいたい。

代員教員の確保が困難になり、教員の負担が増大している。特に、学級担任が全員フルタイムで、一人欠けると他の教員の負担が過大になる。教員の配置に柔軟性を持たせ、余裕のある配置にする必要がある。また、東予地区では、若手教員の流出により、中堅・ベテラン教員のモチベーションが低下し、負担が増大している。

クラス数によらず、子どもも保護者も、教職員も安心して過ごせるような、大人の人員が増えたらいいと思う。

多くの講師や支援員に感謝しているものの、半日勤務のため、担任も部活動も担当できず他の教員の負担が増大している。給与面などの待遇改善により、1 日勤務の先生を増やし、教員の負担軽減を図るべき。部活動や園芸作業、給食費徴収、学年集金など、当たり前のように教員が担当している国はないように思う。

児童生徒の学習の充実には、教員の精神的ゆとりが不可欠。教員配置は、学校規模や児童数だけでなく、教員の精神的余裕も考慮すべき。

学級規模が大きく、教員の業務負担が過多。若手や再任用教員の増加で、仕事量に偏りが生じている。よりバランスの取れた配置を望む。

部活動について

部活動指導員の配置は、その学校だけに任せるのではなく、市が全力で取り組まなければならないと思う。部活動は健全な育成のために必要なかもしれないが、部活動に力を入れすぎるあまり、本来の授業を質の低いものにして、そこで育成されるべき子どもたちの力を伸ばしきれない教員がいるのはおかしいと思う。そもそも 16：25 という終業時間の中で、18 時全下校や少なくとも 2 時間というルールは不合理であり、見直すべき。

その他について

少子化による課題を真剣に考えていく必要がある。